UNIFAS Managed Server
初期セットアップガイド

UNIFAS Ver 3.40 インストール手順

contents

はじめに 1

本書をお読みになる前に 1

1 製品概要 2

1.1 製品概要 2

1.1.1 UNIFASにおける各固有名称 2

1.1.2 UNIFAS Managed Server全体の概要図 3

1.1.3 本書の位置づけ 4

1.1.4 製品サポート 4

2 インストール 5

2.1 インストール準備 5

2.2 インストール手順概要 7

2.3 Internet Information Service(IIS)の設定 8

2.3.1 IISセットアップマネージャによるIISのセットアップ 8

2.4 UNIFAS Managed Serverのインストール 13

2.4.1 PostgreSQLのインストール 14

2.4.2 PHPのインストール 18

2.4.3 UNIFAS Managed Serverのインストール 21

2.4.4 UNIFAS Managed Serverの初期設定 25

2.5 ライセンス登録方法 28

2.5.1 ホストIDの確認 28

2.5.2 ライセンス発行 29

2.5.3 ライセンス登録 35

3 UNIFAS Managed Server設定 37

3.1 ログイン 37

3.1.1 手順 37

3.2 トップサイト設定 39

3.2.1 トップサイト名の変更 40

4 サブサイト設定 43

4.1 新規サブサイト設定 43

4.1.1 新規サブサイトの追加 44

4.2 サイト設定 47

4.3 セキュリティグループについて 49

4.3.1 セキュリティグループの作成 50

4.4 アクセスポイント管理について 52

4.4.1 アクセスポイントの追加 53

5 ACERA初期設定 58
5.1 ACERAの初期設定について 58
5.2 ACERA Setup Utilityについて 58
5.3 ACERA Setup Utilityの使い方 59
5.3.1 初期設定 59
5.3.2 デバイス設定 61
5.3.3 設定内容の反映 67
5.4 ACERAからUNIFAS Managed Serverへの通信を確認 69
6 付録 70
6.1 手動によるIISのセットアップ（Windows Server 2012/2016/2019） 70

はじめに

本ガイドは、UNIFAS Managed Serverの導入を行っていただくために必要となる基本的なソフトウェアの設定、操作方法について説明しております。

本書をお読みになる前に

■本文中の記号

本文中に記載されている記号について説明します。

記号	意味
	お使いになる際の注意点について記述しております。必ず、お読みください。
	ご使用にあたって参考となる説明を記述しております。

■操作記号について

本文中に記載されている操作記号について説明します。

記号	意味
[ ]	スタートメニューやタブなど、マウスを用いた操作を表します。 例）[OK]、[キャンセル]など
ー	連続する操作を表します。 例）[スタートメニュー]ー[FURUNO SYSTEMS]ー[Managed Server管理画面]など
【 】	キーボードを用いた操作を表します。 例）【Enter】キー、【Ctrl】キーなど
『 』	別の図書等を表します。

■商標について

会社名および製品名は、それぞれ、各社の登録商標または商標です。

1 製品概要

1.1 製品概要

1.1.1 UNIFASにおける各固有名称

UNIFASをご使用いただくにあたって必要な固有名称について記載いたします。

- **UNIFAS Managed Server**

ACERAシリーズを集中管理できるソフトウェア型のコントローラです。
サーバ上にWEBサービスとして稼働し、ブラウザ経由でアクセスできる管理インターフェイスを備えます。

- **アクセスポイント「ACERA」シリーズ**

UNIFASで管理可能なフルノシステムズの機器製品（アクセスポイント、スイッチ）の名称です。
UNIFASでACERAを管理することで、ACERAは多くのネットワーク機能を提供します。

- **サイト**

UNIFAS では管理を行う単位をサイトと呼び、サイトには以下の２種類に分類されます。

・トップサイト
トップサイトは全てのサイトを統括します。
トップサイトはトップサイト管理者のみがアクセスでき、サブサイトの構築、管理、削除等が可能です。
また新規サブサイト作成時のデフォルト値を提供します。

・サブサイト
サブサイトはトップサイト配下のグループとなり、サブサイト管理者が運営します。
ACERA が稼働するために必要な設定や情報はサブサイト内で設定します。

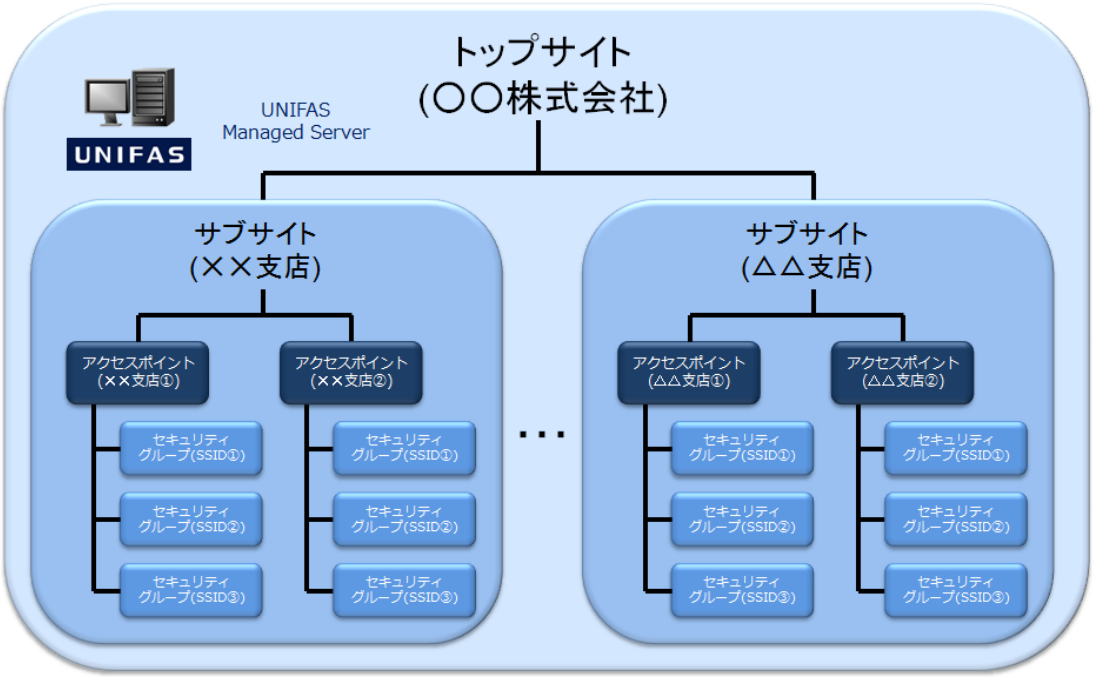
- **セキュリティグループ**

セキュリティグループはACERAが使用するESSIDを単位として、認証方式や暗号方式などをひとまとめにした総称となります。

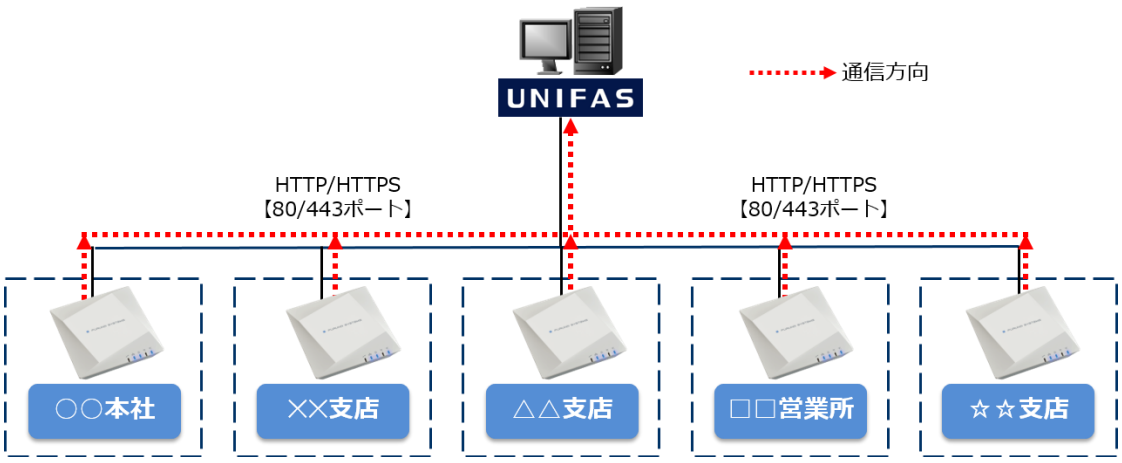
1.1.2 UNIFAS Managed Server全体の概要図

UNIFAS Managed Serverはトップサイトを頂点に複数のサブサイトで構成されます。
各サブサイトはACERA固有の設定を保持し、サブサイト単位で柔軟な構成を行うことができます。

下図はUNIFAS Managed Serverの構築例になります。
構築例では全体のサイトを統括するトップサイトを会社名、サブサイトを各支店として管理することにより、各支店に設置したアクセスポイントを視覚的に分かりやすく管理することが可能です。

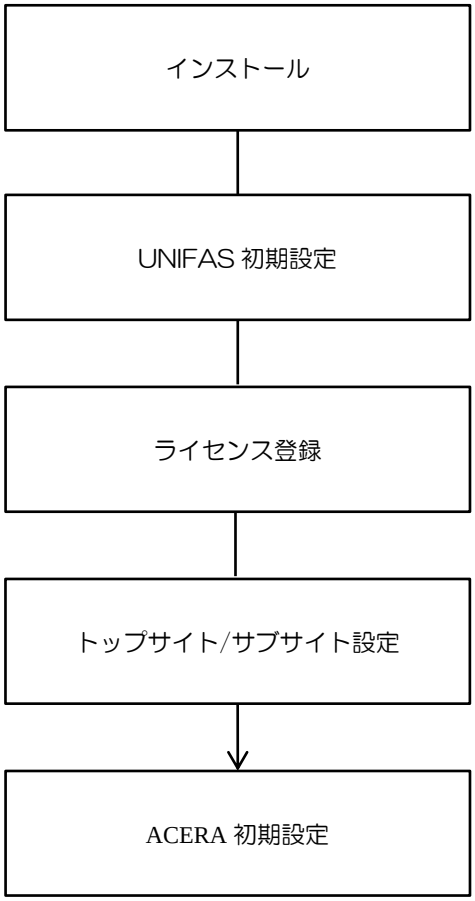


ACERAはUNIFAS Managed Server上に設定されたサブサイトに、定期的にHTTP/HTTPSを使用してアクセスし、設定値の取得や通信ログの送信などを行い動作します。



1.1.3 本書の位置づけ

本書記載の手順については、UNIFAS Managed Server構築からアクセスポイントが電波の出力を行うまでの基本的な手順を、以下の流れで記載しております。



また構築後の実際の運用に当たって必要な各機能の詳細については、インストールメディアのHELPフォルダ内の「UNIFAS Managed Server Admin」をお読みください。

1.1.4 製品サポート

本製品に関するお問い合わせは、ご購入された販売店もしくは、下記のサポートセンターまでお問い合わせください。

サポートセンター：https://www.ii-desk.com

- サポートセンターへお問い合わせ頂く場合には、サポート契約が必要となります。
  サポート契約が失効している場合は、ご購入いただいた販売店までお問い合わせください。

2 インストール

2.1 インストール準備

インストールを開始する前に、下記をご用意ください。

- UNIFAS Managed Serverのインストールメディア
- UNIFASライセンス証明書
- UNIFAS運用サポート契約証明書

- インストールにはAdministrator権限が必要です。
- 構築を始める前にUNIFAS Managed Serverインストールメディア内の「ReleaseNote.txt」をお読みください。
  UNIFASの対応OS情報などは「ReleaseNote.txt」に記載しております。
- UNIFAS Managed ServerとACERAとの通信では、HTTP(80 番)、HTTPS(443 番)を使用します。
  ファイアウォールの設定でこれらのポートへの外部からのアクセスを許可してください。
- 環境によっては、Windows Updateが必要な場合がございます。動作が確認できているWindows Updateのバージョンについては、サポートセンターをご確認ください。

対応ブラウザ

UNIFAS Managed Serverの設定を行うにはブラウザでアクセスする必要があります。
動作ブラウザは以下の通りです。

ブラウザ	バージョン
Microsoft Internet Explorer	11 以降
Google Chrome	45 以降
Mozilla Firefox	43.0 以降

- 各ページを正しく表示させるため、ご使用するブラウザでJavascriptを有効にしてください。

column

ACERA800/810/900/850Mをご利用される場合

- UNIFAS3.40以降、セキュリティ強化のため一部の暗号通信が無効化されています。
  ACERA800/810/900/850Mをご利用される場合、レジストリエントリの修正が必要となります。
  「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥SecurityProviders¥SCHANNEL¥Protocols」以下の各キーを変更してください。

エントリ	キー	修正内容
TLS 1.0¥Server	DisabledByDefault	1を0に変更
	Enable	0.を1に変更

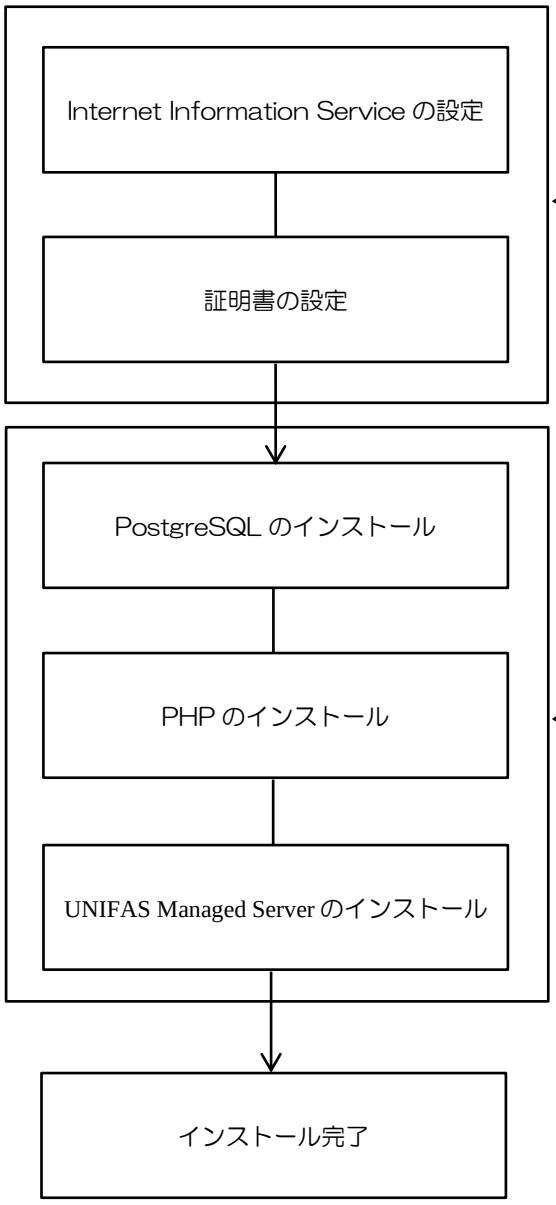
※ レジストリ操作を誤るとWindowsの起動に支障が発生する場合があります。
作業は慎重に行ってください。

※ レジストリ操作の誤りによる障害につきましては修復のサポートは致しかねます。
ご了承ください。

※ 変更後はOSの再起動が必要となります。

2.2 インストール手順概要

インストールは下記の手順で行います。
本書の手順に沿って進めてください。





IIS Setup Manager による作業



セットアップマネージャ
によるインストール

2.3 Internet Information Service(IIS)の設定

- 本作業は初期導入の際に必ず行ってください。

UNIFAS Managed Serverの動作にはInternet Information Service（以下IIS）のセットアップと、IISへ証明書の設定が必要となります。
設定は「IISセットアップマネージャ」を使って自動的に行う方法と、手動で行う方法があります。
通常は「IISセットアップマネージャ」を使用して設定を行ってください。
手動でのセットアップの手順については「6.付録」を参照してください。

2.3.1 IISセットアップマネージャによるIISのセットアップ

► IISのセットアップ手順

1 「UNIFAS Managed Server」のインストールメディアをドライブにセットします。
ブラウザが起動し、「install.html」が開きます。

- 「install.html」が開かない場合、ドライブをエクスプローラで開き、「install.html」を実行してください。
- 開いた「install.html」は全てのセットアップ作業が完了するまで、そのまま開いたままにしておいてください。

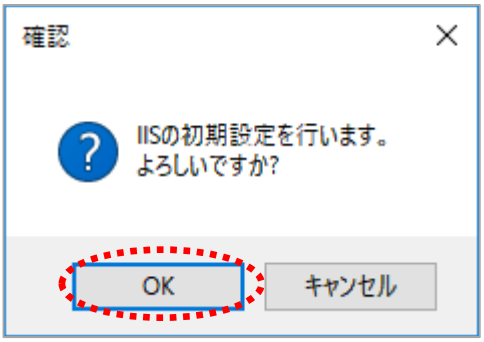
2 「初めてインストールされる方」-「UNIFAS Managed Server インストール順」内の[1.IISセットアップマネージャ]のリンクをクリックします。



3 **エクスプローラが開きますので、[CD-ROM]¥NaIISMan.exeを実行します。**
[IISの初期設定を行う]を選択し、 [次へ]をクリックします。



4 **[OK]をクリックします。**
設定にはしばらく時間がかかります。





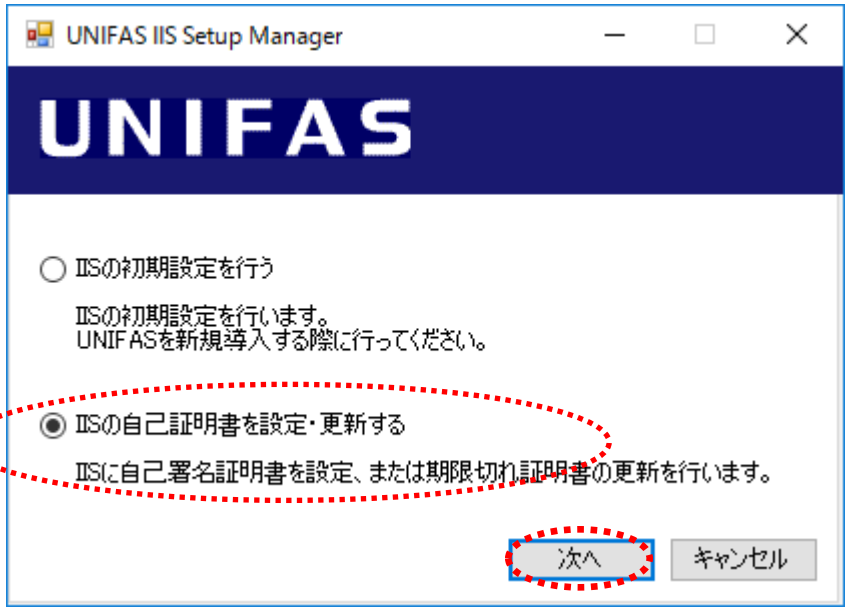
5 **[OK]をクリックします。**



以上でIISセットアップマネージャを用いたIISのセットアップは完了です。
引き続き証明書の設定を行いますので、IISセットアップマネージャは終了しないでください。

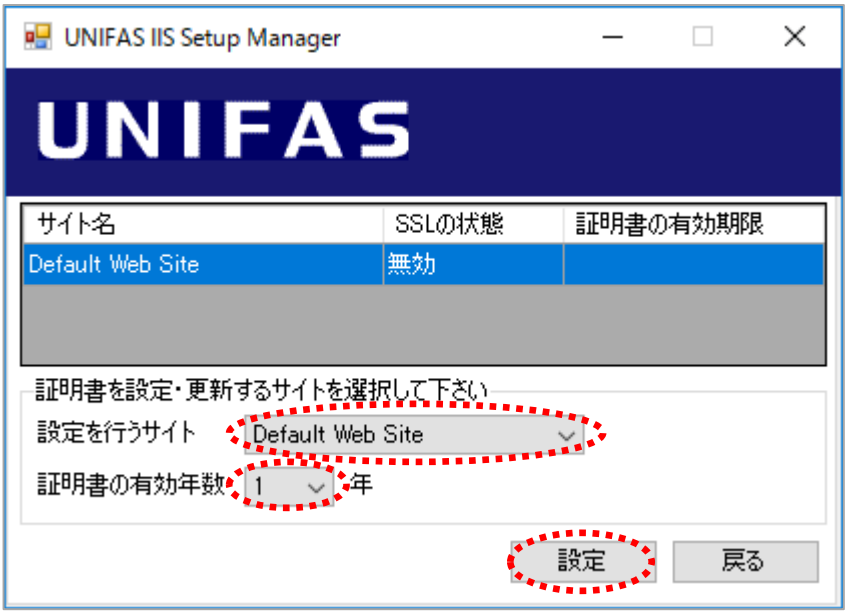
► 証明書の設定手順

1 **[IISの自己証明書を設定・更新する]を選択し、[次へ]をクリックします。**



2 [設定を行うサイト]、[証明書の有効年数]を選択し [設定]をクリックします。

UNIFAS Managed Serverは通常「Default Web Site」にセットアップされます。

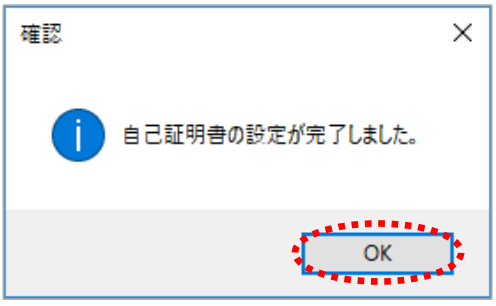


- UNIFAS Managed ServerはIIS内の最初のサイトにセットアップされ、通常は「Default Web Site」です。
- 証明書の有効期限が切れると、ログイン時に警告が表示されます。期限が切れた場合、同様の手順で再度設定する必要があります。

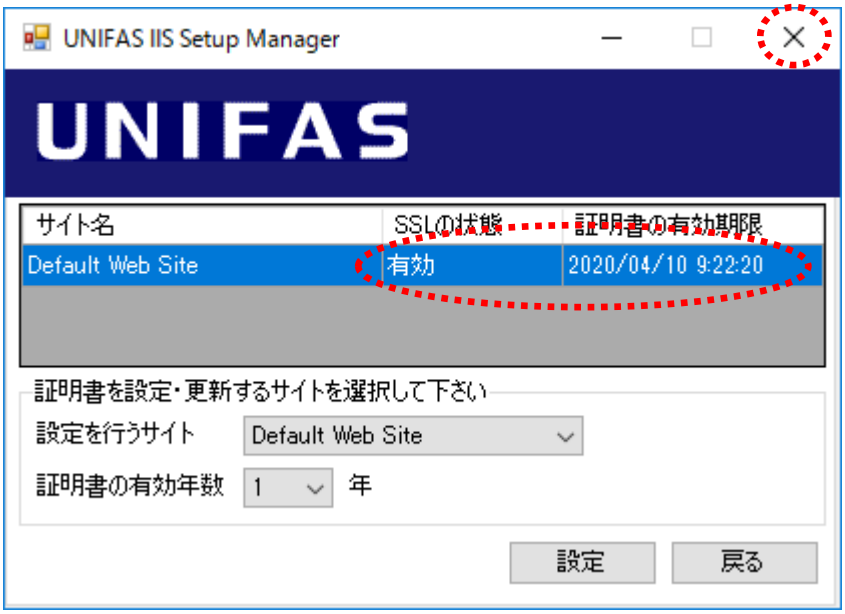
3 [OK]をクリックします。



4 [OK]をクリックします。



5 **SSLの状態が有効になり、証明書の有効期限が登録されたことを確認し、[×]をクリックして終了します。**



以上でIISセットアップマネージャを用いた証明書の設定は完了です。
セットアップマネージャを終了してください。

column

自己署名証明書について

- 本手順で設定される証明書は「自己署名証明書」となります。
  UNIFAS Managed Serverへブラウザでアクセスした際にセキュリティの警告が表示されますが、特に問題はありません。

2.4 UNIFAS Managed Serverのインストール

UNIFAS Managed Serverは複数のアプリケーションによって動作します。
これら複数のアプリケーションはセットアップマネージャを使用してインストールを行います。

- セットアップは各アプリケーション毎に行うこともできますが、通常はセットアップマネージャを使用してインストールを行ってください。

1 「初めてインストールされる方」-「UNIFAS Managed Server インストール順」内の[2.セットアップマネージャ]のリンクをクリックします。

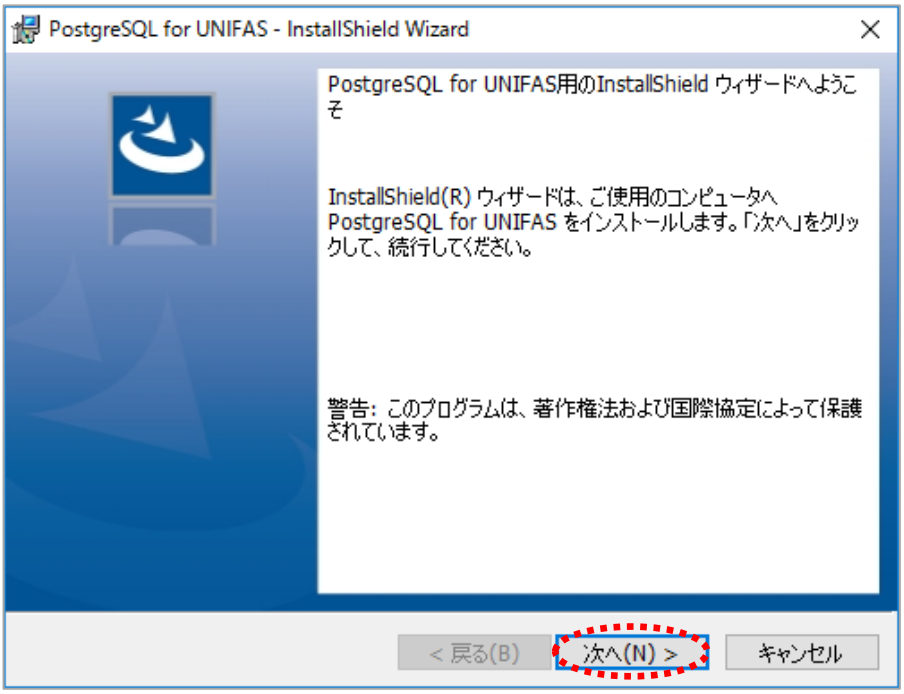


2 エクスプローラが開きますので、[CD-ROM]¥NaSetupMan.exeを実行します。
UNIFAS Setup Managerが起動しますので、[インストール]をクリックします。
自動的にインストーラが起動します。

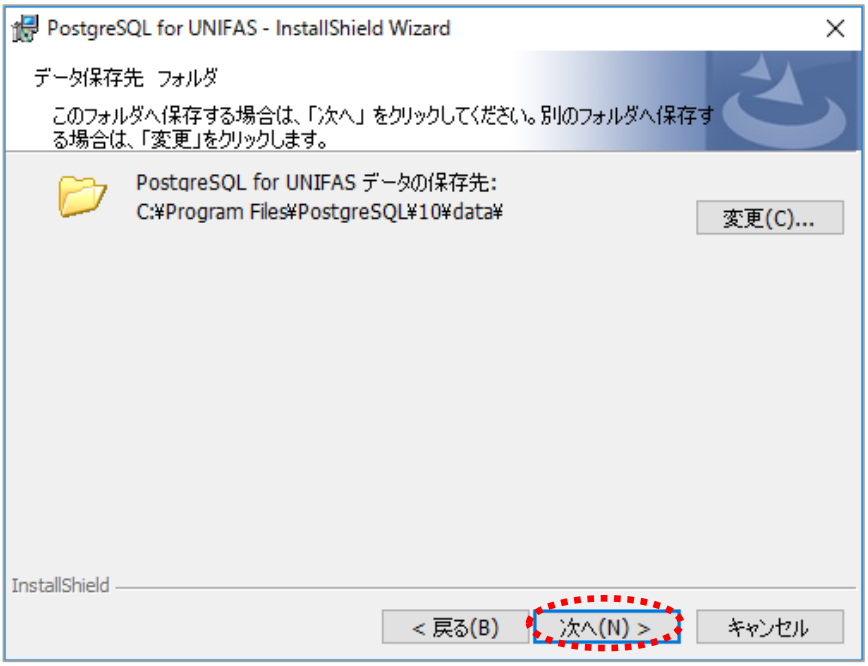


2.4.1 PostgreSQLのインストール

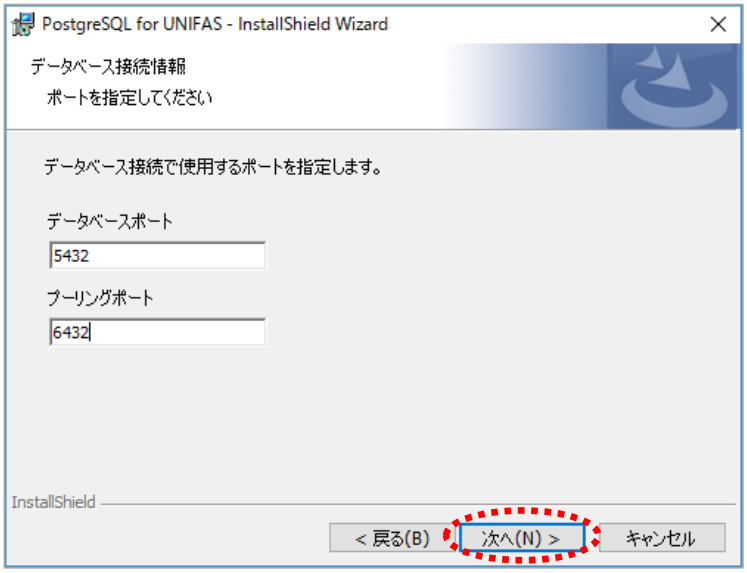
1 **[次へ]をクリックします。**



2 **インストール先を確認し、[次へ]をクリックします。**



3 **ポート設定画面が表示されます。既定値(5432)(6432)のまま[次へ]をクリックします。**



4 **データベース接続のパスワード設定を行います。**
パスワードを入力し[次へ]をクリックします。

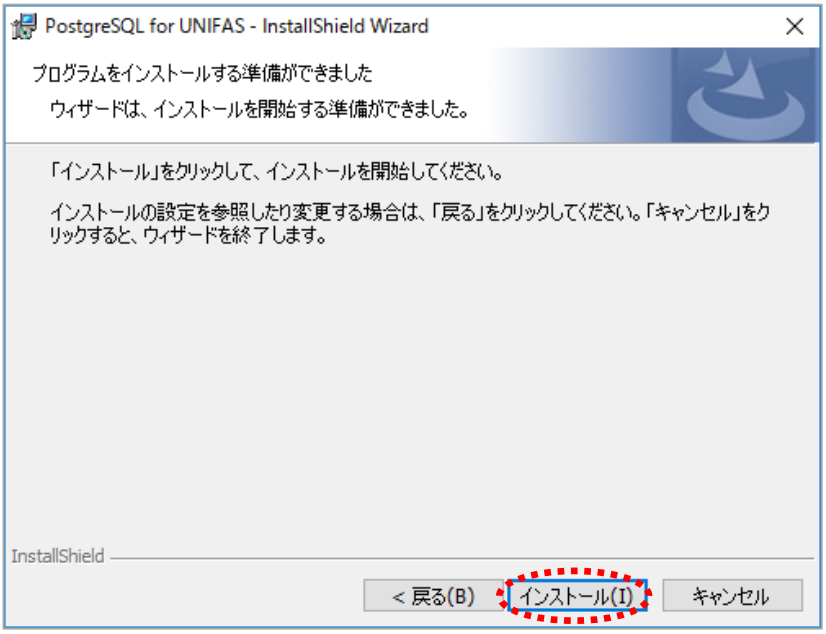


column

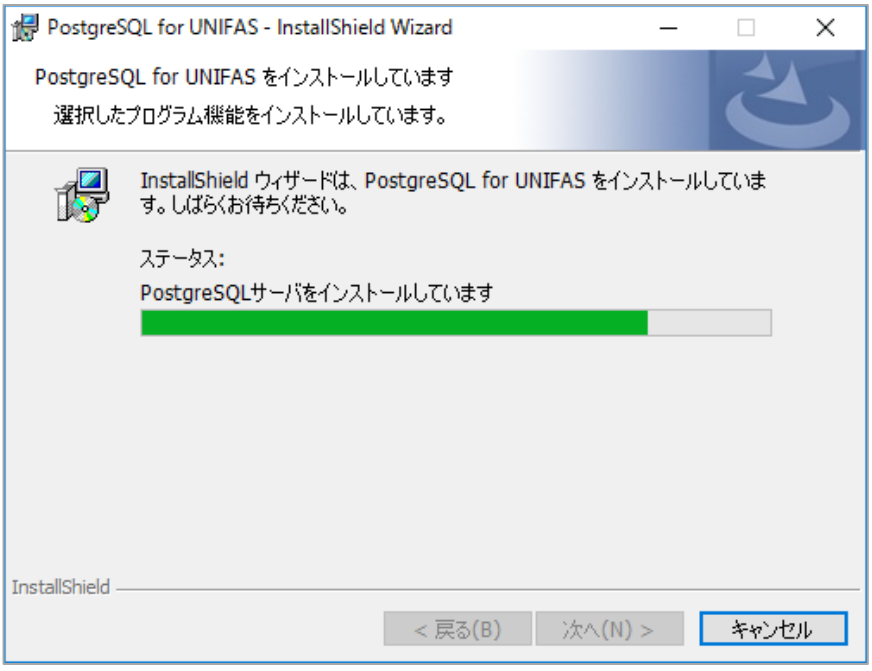
データベースのアカウントについて

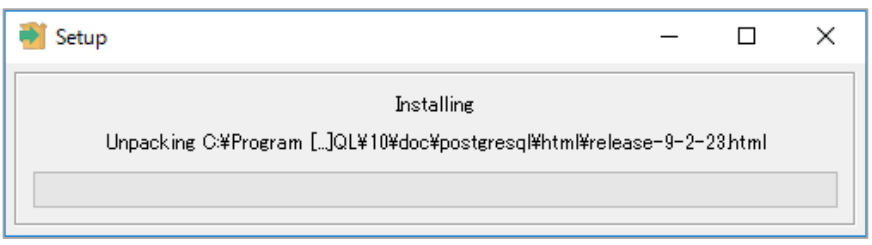
- アカウントIDは「postgres」固定になります。
- パスワードは、6～64文字の半角英数文字が使用できます。
- パスワードに下記の4種の文字は使用できません。
  ″（ダブルクオート）、‘（シングルクオート）、；（セミコロン）、＝（イコール）
- 本アカウントは、PostgreSQLサービスのログインアカウントおよび、データベース管理者のアカウントとして設定されます。
- 本パスワードは後ほどUNIFASの初期設定で使用します。また、再インストール時には必要となりますので忘れないようご注意ください。

5 [インストール]をクリックします。

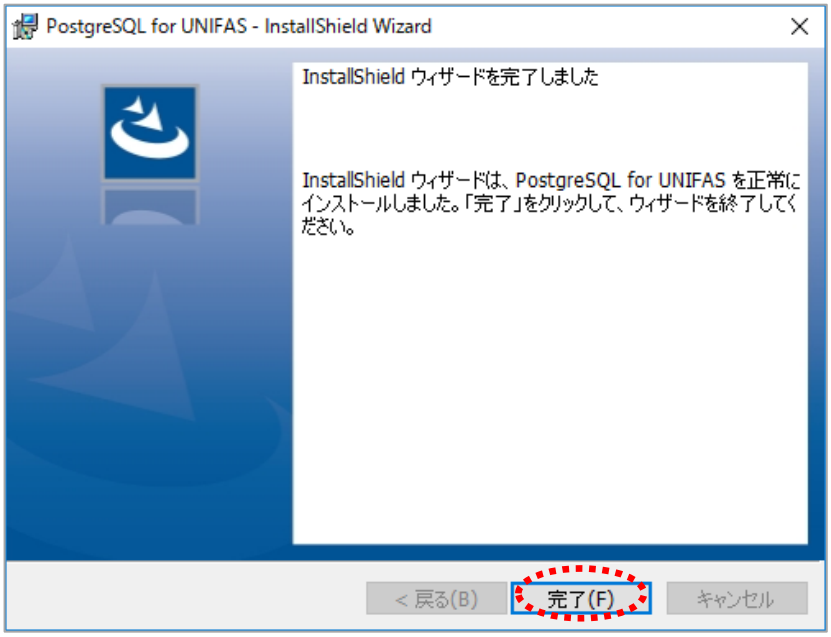


6 インストールが完了するまでお待ちください。

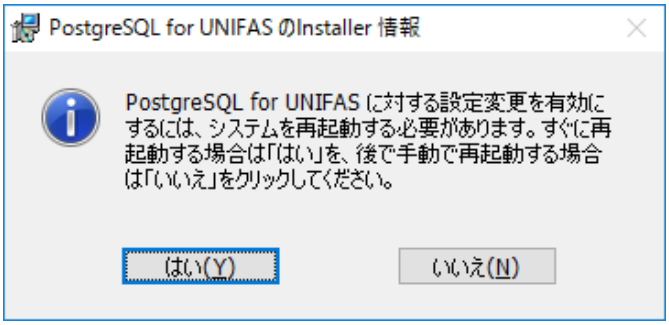




7 [完了]をクリックします。



以上でPostgreSQLのインストールは完了です。
完了後、下記画面が表示された場合は、再起動を実施してください。



再起動完了後、エクスプローラを開き、[CD-ROM]¥NaSetupMan.exeを実行し
インストールを続きから実施してください。

column

アンチウイルスソフトウェアの使用について

- アンチウイルスソフトウェアを使用される場合、以下のフォルダをリアルタイムスキャンの除外設定に追加してください。
  C:¥Program Files¥PostgreSQL¥12¥data
  ※2の手順で「データ保存先 フォルダ」を変更された場合は、そのフォルダを除外設定の対象としてください。

2.4.2 PHPのインストール

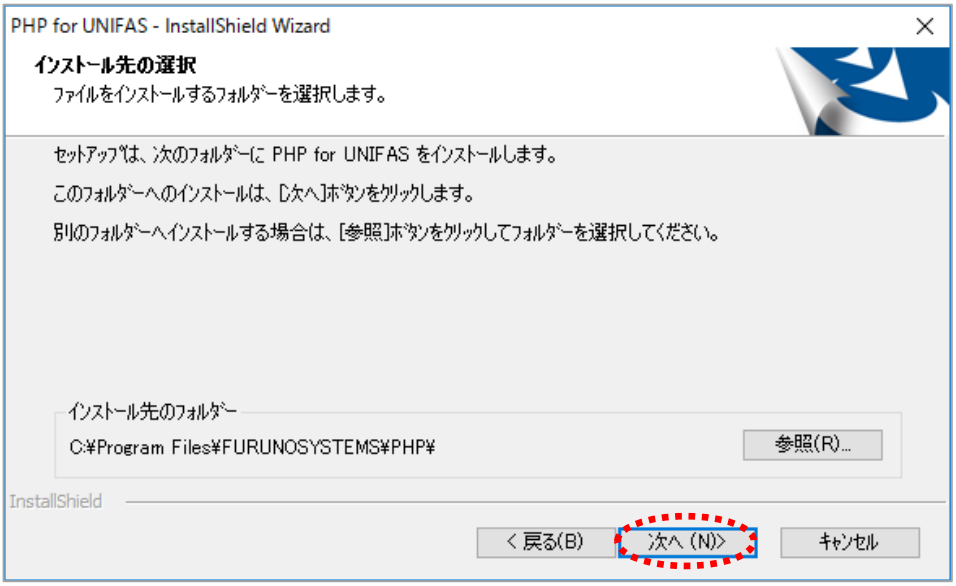
1 **PHPのインストールが自動的に開始されます。**



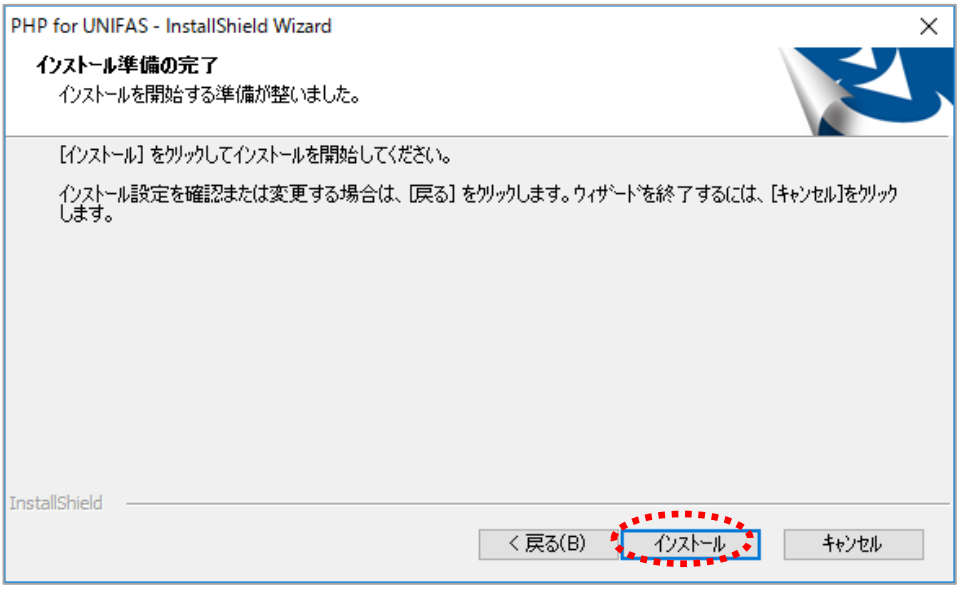
2 **[次へ]をクリックします。**



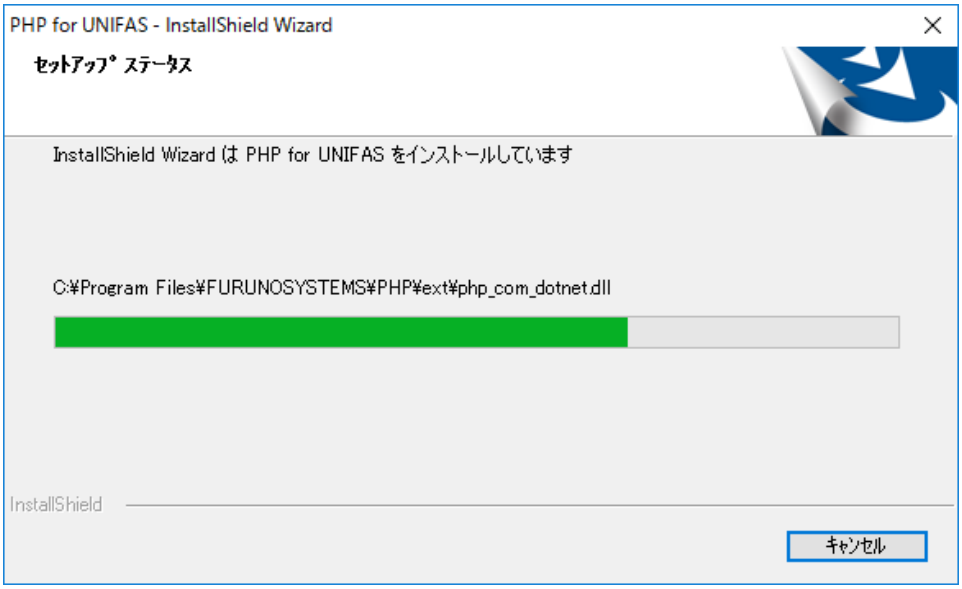
3 インストール先を確認し、[次へ]をクリックします。



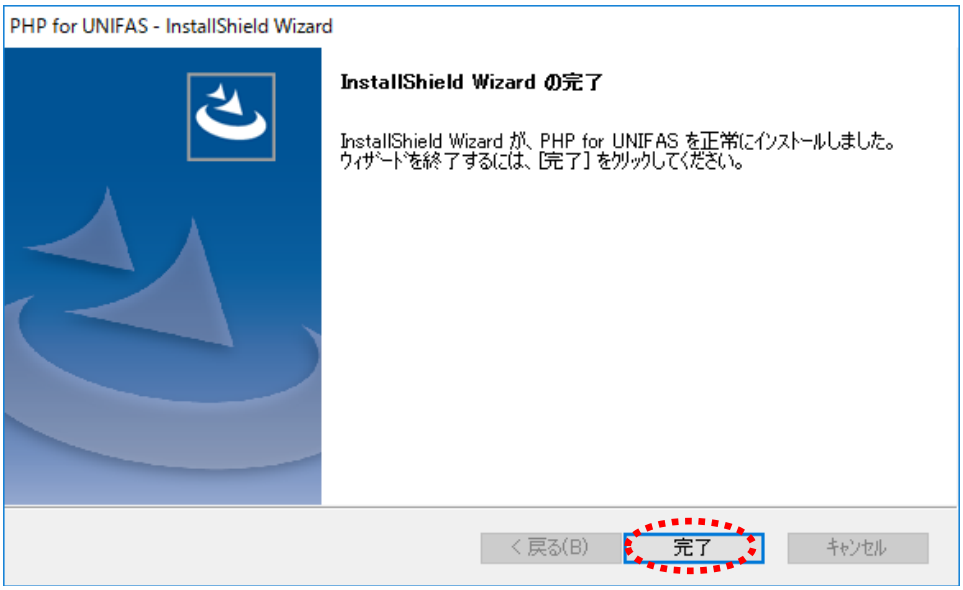
4 [インストール]をクリックします。



5 インストールが完了するまでお待ちください。



6 [完了]をクリックします。



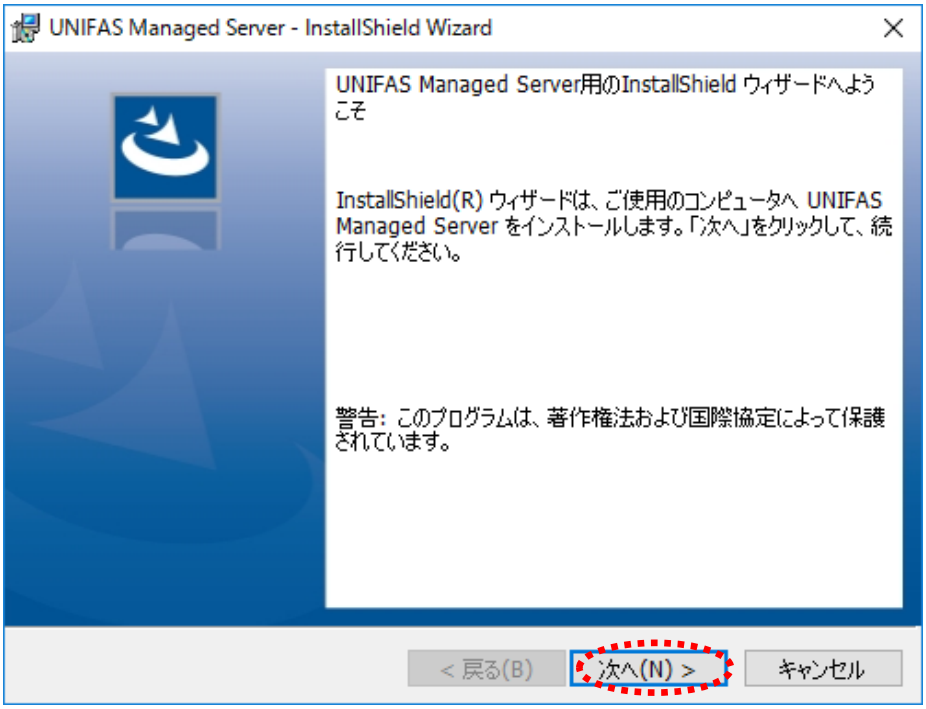
以上でPHPのインストールは完了です。

2.4.3 UNIFAS Managed Serverのインストール

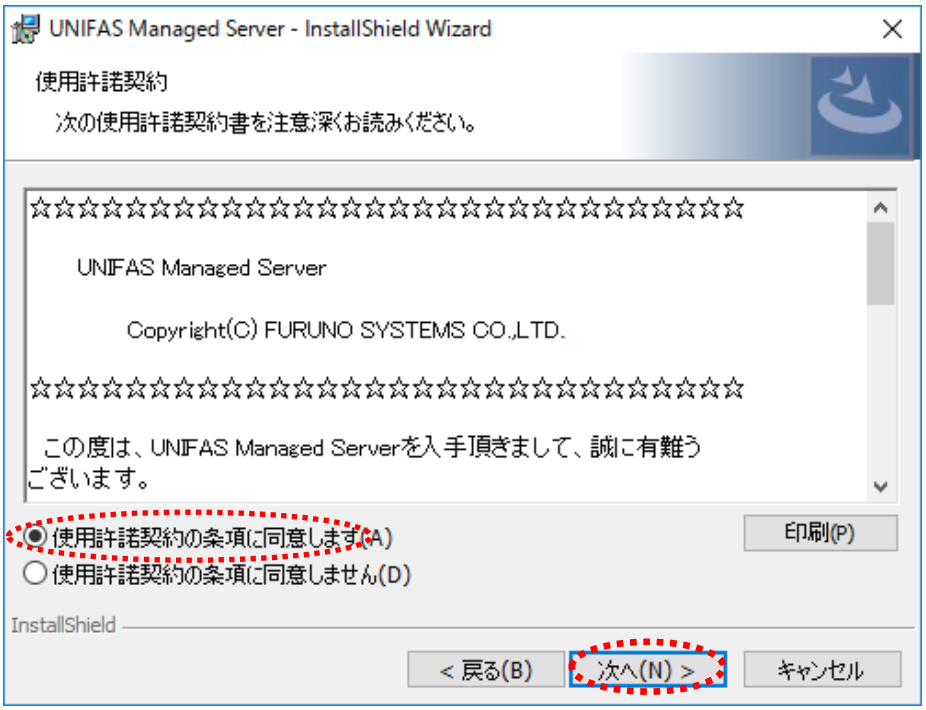
1 **UNIFAS Managed Serverのインストールが自動的に開始されます。**



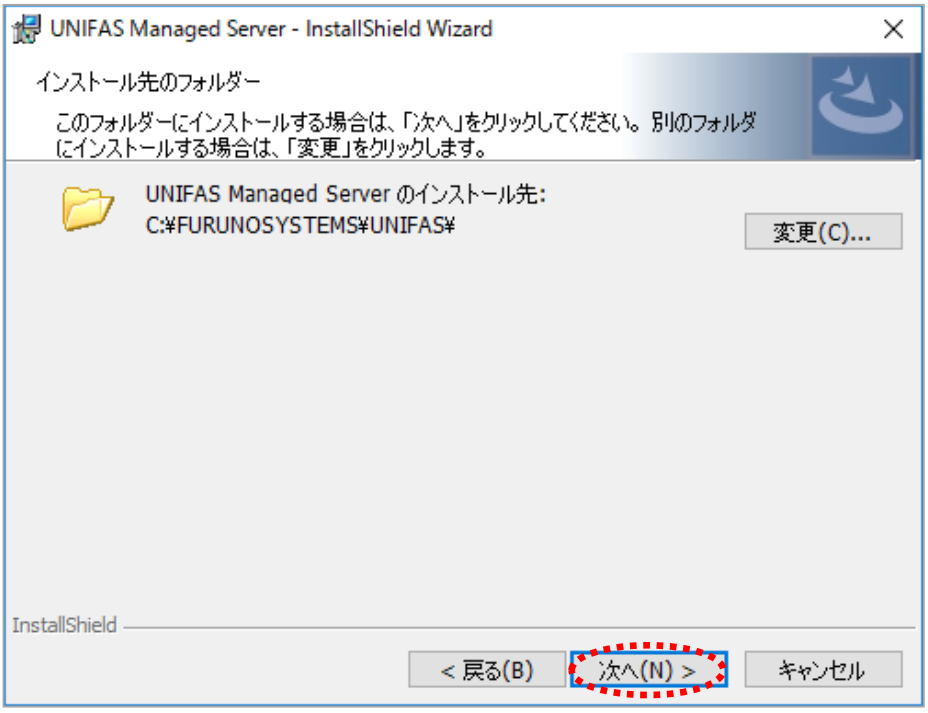
2 **[次へ]をクリックします。**



3 [使用許諾契約の条項に同意します]をチェックし、[次へ]をクリックします。

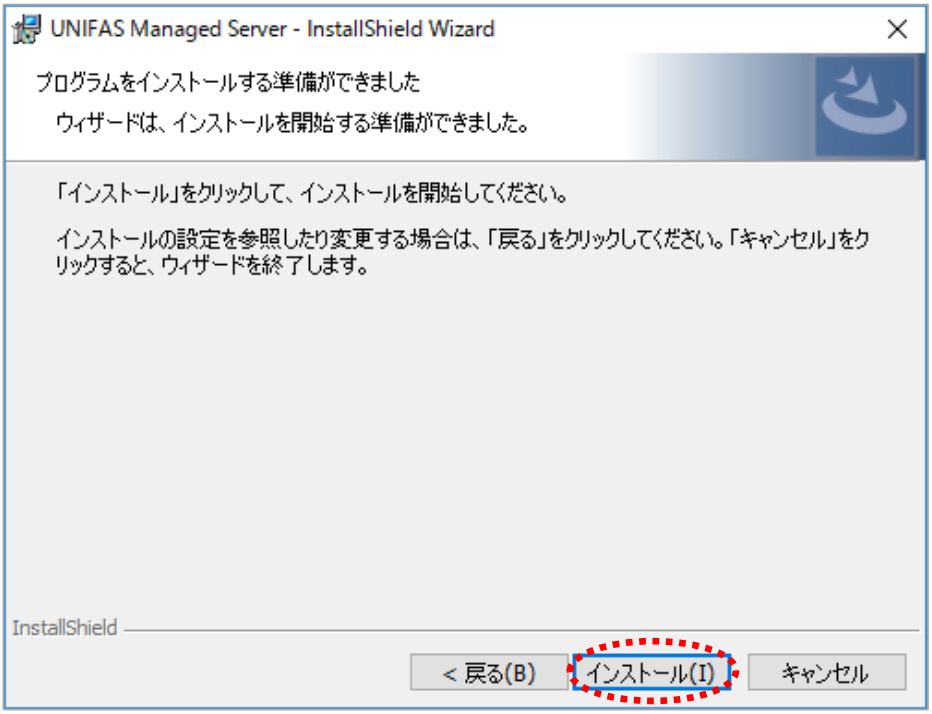


4 インストール先を選択し、[次へ]をクリックします。

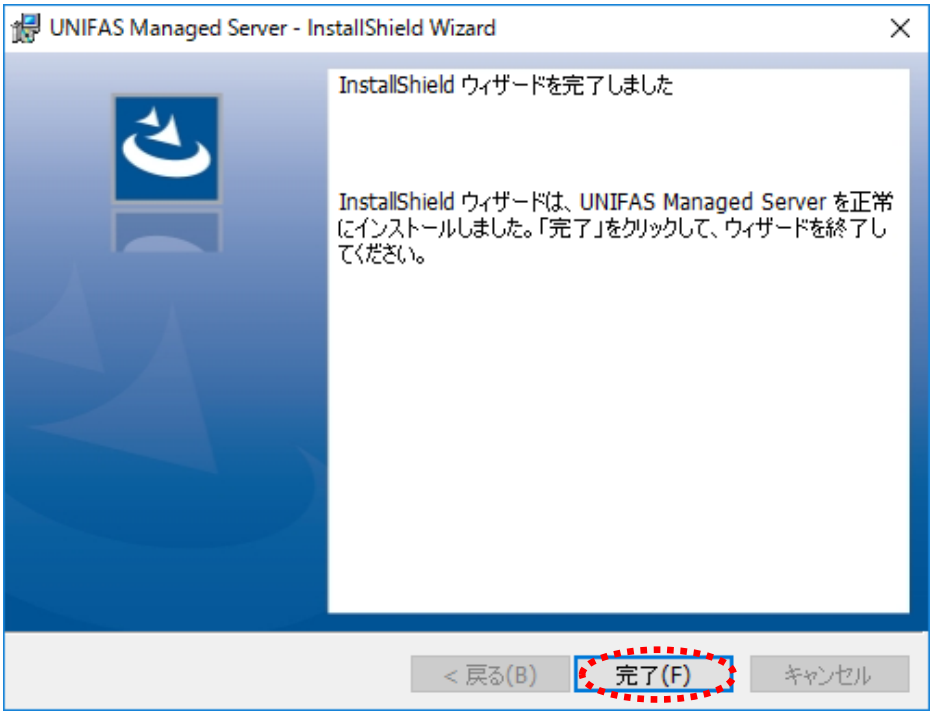


- インストール先を変更される場合、ドライブレターの変更のみとしてください。
  デフォルトのパス(**FURUNOSYSTEMS¥UNIFAS¥**)を変更されると、動作致しませんのでご注意ください。

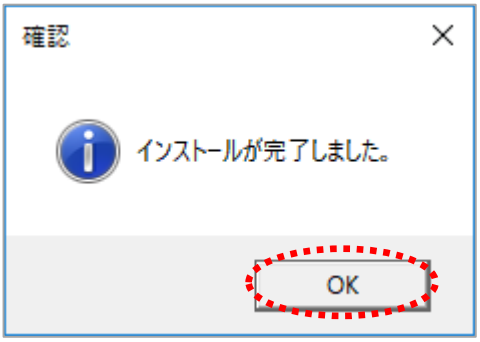
5 [インストール]をクリックします。



6 [完了]をクリックします。



7 [OK]をクリックします。



8 [終了]をクリックします。



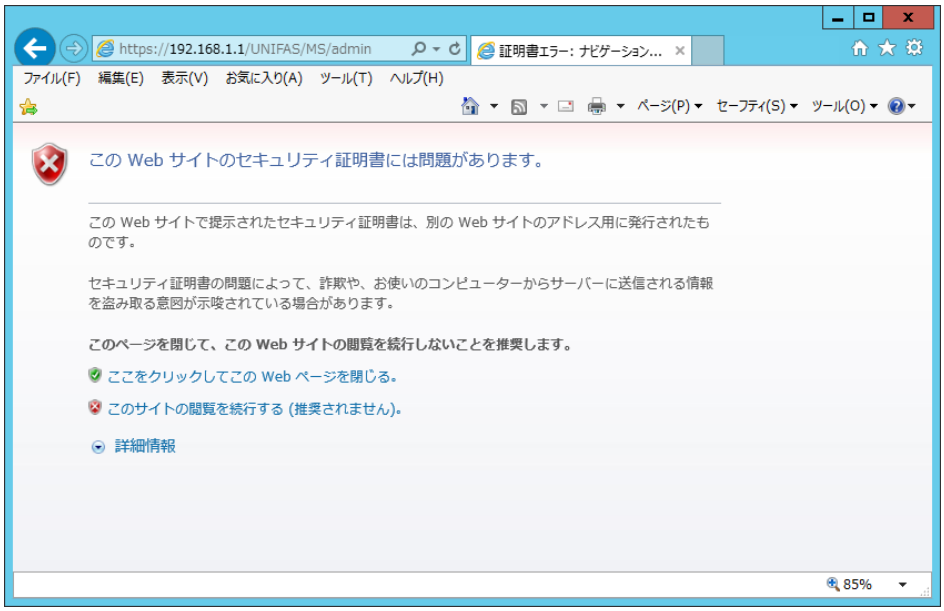
以上でUNIFAS Managed Serverのインストールは完了です。
続いてUNIFAS Managed Serverの初期設定を行います。

2.4.4 UNIFAS Managed Serverの初期設定

1 再起動完了後、「UNIFAS Managed Server」のインストールメディアの「install.html」を開きます。

2 「初めてインストールされる方」-「UNIFAS Managed Server インストール順」内の[3.Managed Serverの管理画面]のリンクをクリックします。



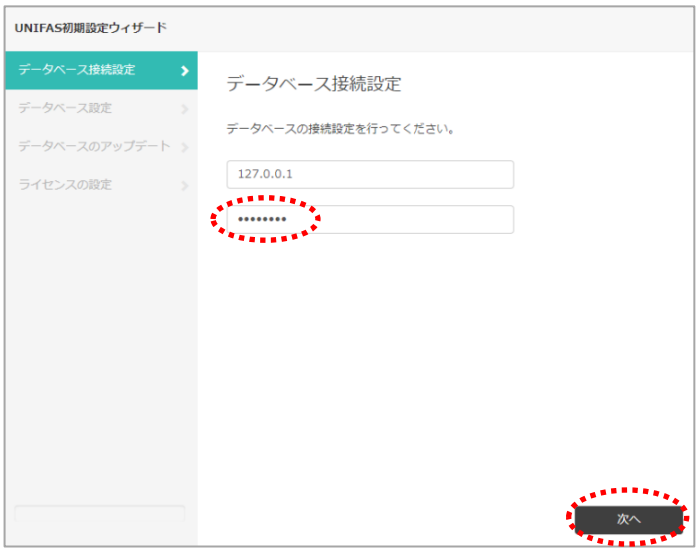


column

自己証明書の警告について

- ブラウザによって証明書の警告が表示されることがあります。
- I Internet Explorerの場合[このサイトの閲覧を続行する]などブラウザによって警告表示が異なります。

3 **初回起動時のみUNIFAS初期設定ウィザードが表示されます。「2.4.1 PostgreSQLのインストール」で設定したデータベースのパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。**



* 127.0.0.1の値は通常規定値から変更する必要はありません。

4 **データベース設定で初期化を選択し、[次へ]をクリックします。**



以上でUNIFAS Managed Serverの初期化は完了です。
続いてライセンスの登録を行います。

column

旧環境から更新される場合

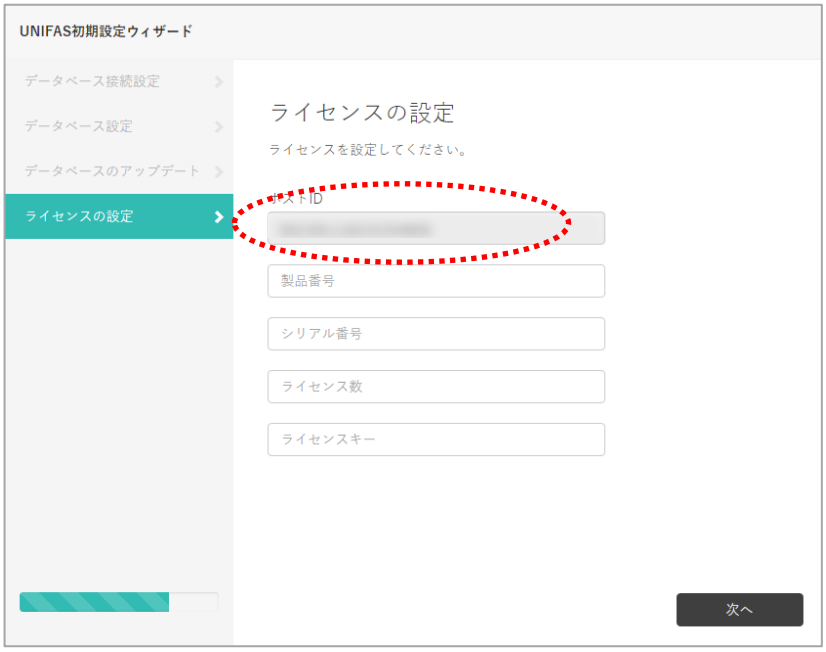
- 手順6で「初期化」ではなく「リストア」を選択してください。
  「初期化」を実行すると、バージョンの相違によって旧データのリストアが行えなくなります。
  初期化を実行したあとにリストアを実施される場合は、PostgreSQL付属ツールのpgAdmin4で「fscmsdb」データベースを一度削除してからリストアを行ってください。

- ウィザードでリストアできるバックアップファイルのサイズ上限は2GBまでです。
  2GBを超えるバックアップファイルは「UNIFAS Managed Server Backup」を使用してリストアを行ってください。

2.5 ライセンス登録方法

2.5.1 ホストIDの確認

1 UNIFAS初期設定ウィザードに表示されているホストIDをコピーします。



続いてサポートセンターからライセンスを発行します。
UNIFAS初期設定ウィザードはこのまま終了しないでください。

column

ホストIDについて

- ホストIDはサイト毎に割り当てられるユニークな値となります。
- データベースの初期化を行うと、ホストIDは変わりますので、その都度ライセンスを設定する必要があります。

2.5.2 ライセンス発行

ライセンス発行はサポートセンターで行うことができます。
サポートセンターの利用には「サポート契約証明書」または「UNIFASライセンス証明書」が必要となります。
「サポート契約証明書」または「UNIFASライセンス証明書」は下記のような用紙となります。


UNIFAS運用サポート契約証明書

本サポート契約証明書は、弊社製品をご利用頂いている
お客様に対し、ご契約内容に沿った権利を証明するものです。

発行日
ご契約番号
パスワード

ご契約内容	有効期限	契約数
UNIFAS Software Support		

ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
サポートセンター URL http://www.ii-desk.com

FURUNO SYSTEMS


UNIFASライセンス証明書

本ライセンス証明書は、弊社製品をご利用頂いている
お客様に対し、ご契約内容に沿った使用権を証明するものです。

発行日
ご契約番号
パスワード

製品	シリアル	契約数
UNIFAS サブスクリプション AP1000台月間使用料		
UNIFAS-A LDAP Option		
UNIFAS-B LDAP Option		

UNIFAS 使用期限日

ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
サポートセンター URL http://www.ii-desk.com

FURUNO SYSTEMS

1 ブラウザからサポートセンター「https://www.ii-desk.com」へログインします。



項目	意味
契約番号	サポート契約証明書に記載されている 「ご契約番号」を入力します。
パスワード	サポート契約証明書に記載されている 「パスワード」を入力します。
メールアドレス	初めてのログイン時は未入力としてください。

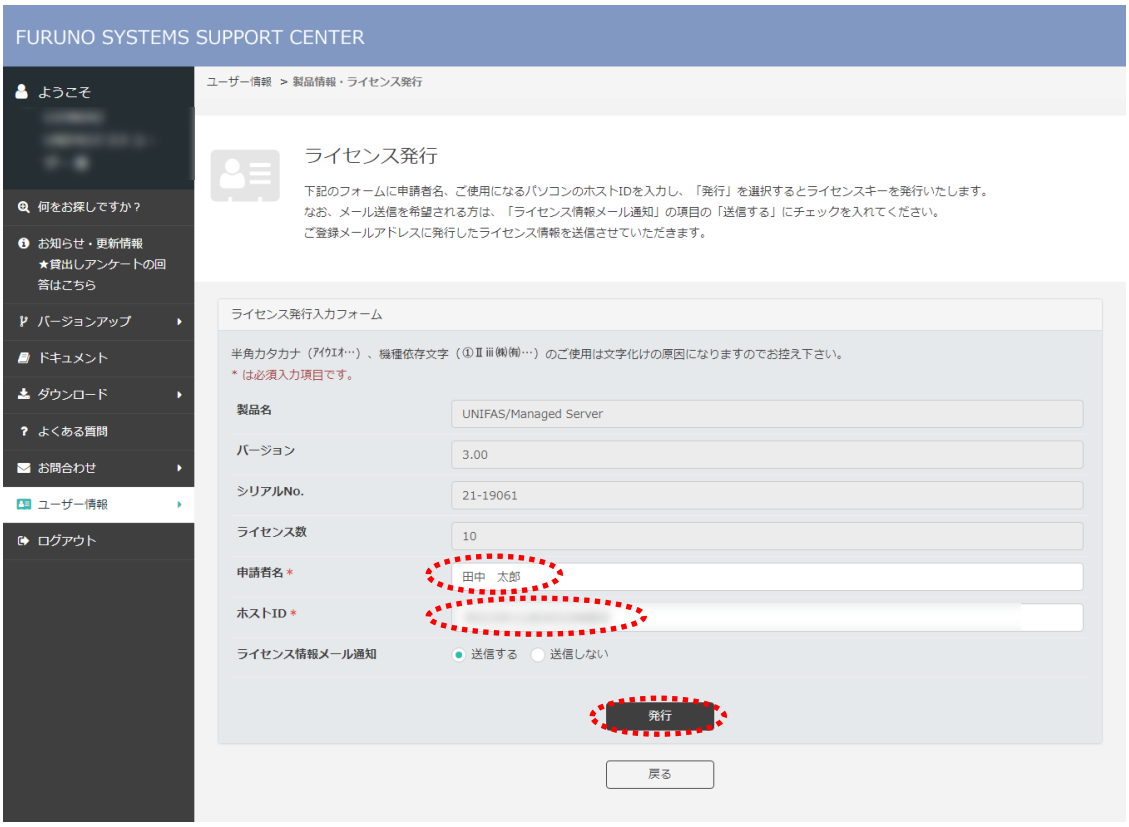
2 上部メニューの[ユーザー情報]-[製品情報・ライセンス発行]をクリックします。



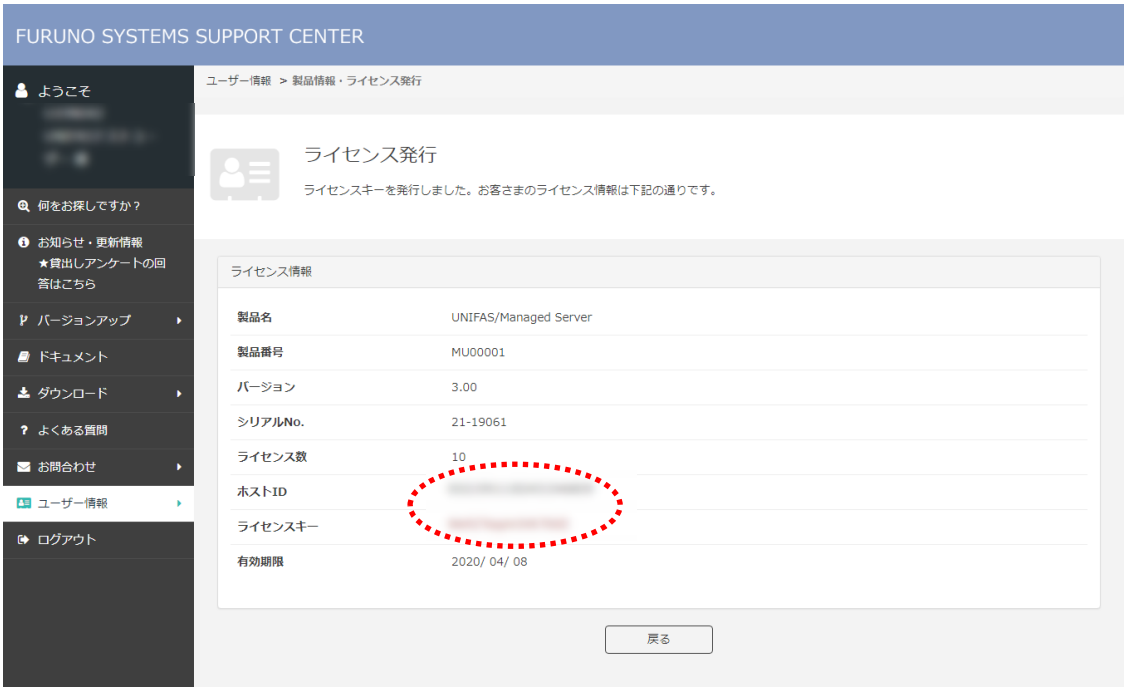
3 UNIFAS Managed Server行の[発行]をクリックします。



4 申請者名と「2.5.1 ホストIDの確認」で取得したホストIDを入力し[発行]をクリックします。



5 発行されたライセンス情報が表示されます。

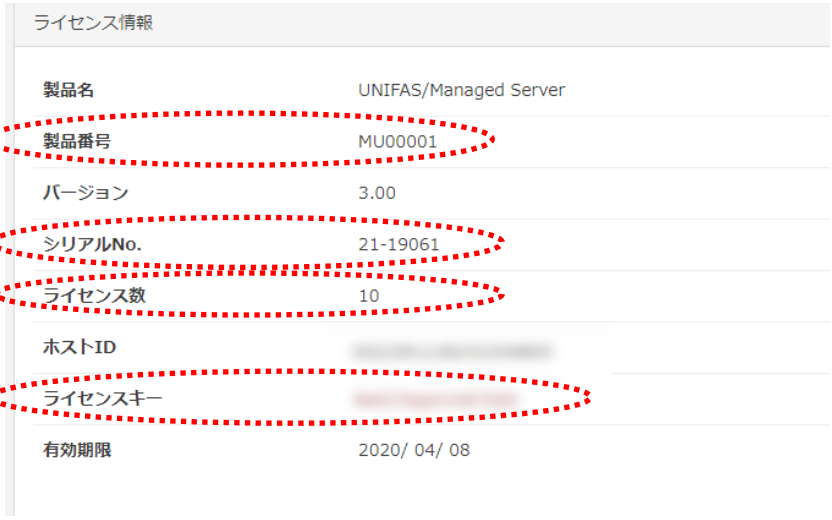


以上でライセンスの発行は完了です。
引き続き発行されたライセンスの登録を行います。

2.5.3 ライセンス登録

1 UNIFAS初期設定ウィザードにサポートセンターで発行したライセンスを入力します。





項目	意味
製品番号	サポートセンターで表示された「製品番号」を入力します。
シリアル	サポートセンターで表示された「シリアルNo」を入力します。
ライセンス数	サポートセンターで表示された「ライセンス数」を入力します。
ライセンスキー	サポートセンターで表示された「ライセンスキー」を入力します。

2 ライセンスの追加に成功すると初期設定ウィザードの設定が完了します。[完了]をクリックしUNIFASのログイン画面に移動します。



以上でライセンス登録は完了です。

column

ライセンスについて

- ライセンスの有効期限切れ90日前になると、UNIFAS Managed Serverのトップサイトのダッシュボードに「サポートライセンスがあとXX日で終了します。」と表示されます。
- ライセンス有効期限が切れると、UNIFAS Managed Serverのトップサイトのダッシュボードに「サポートライセンス期限切れになっています。サポート契約の更新処理をお願いします。」と表示されます。
- ライセンス数はUNIFAS Managed Serverの固定ユーザ使用可能数を表しており、UNIFAS Managed Server本体のライセンスを表すものではありません。
  固定ユーザのライセンスをお持ちでない場合、0で表示されますがUNIFAS Managed Serverの使用に関しては問題ありません。

3 UNIFAS Managed Server設定

3.1 ログイン

UNIFAS Managed Serverの設定はブラウザを使用して、WEB画面上から行います。
設定を行うにあたって管理画面へのログインが必要となります。

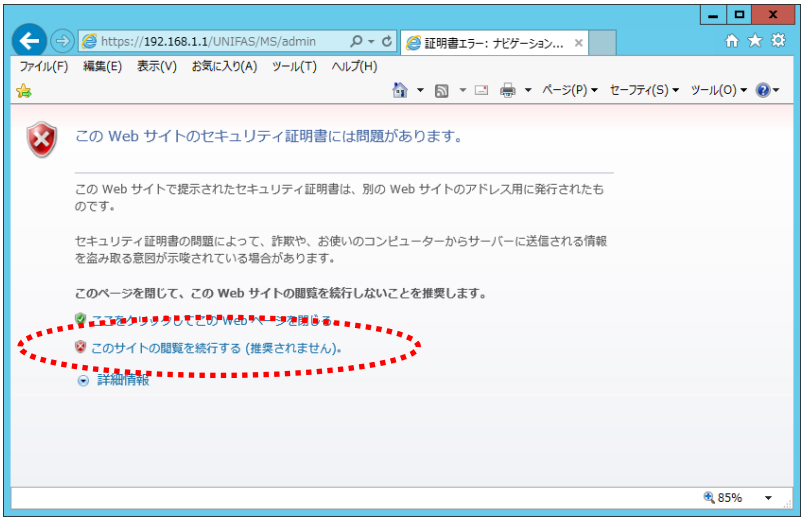
3.1.1 手順

UNIFAS Managed Serverの管理画面へは、Windowsのスタートメニューから[プログラム]-[FURUNO SYSTEMS]-[Managed Server管理画面]をクリックします。

また、他のPCからアクセスする場合、下記のURL形式となります。
https://サーバのアドレス/UNIFAS/MS/admin/

例)サーバのIPアドレスが「192.168.1.1」の場合
https://192.168.1.1/UNIFAS/MS/admin/

1 Internet Explorerなどのブラウザを起動し管理画面へアクセスします。
自己署名証明書を使用している場合、ブラウザによっては下記の警告が表示されますが、[このサイトの閲覧を続行する]をクリックしてください。

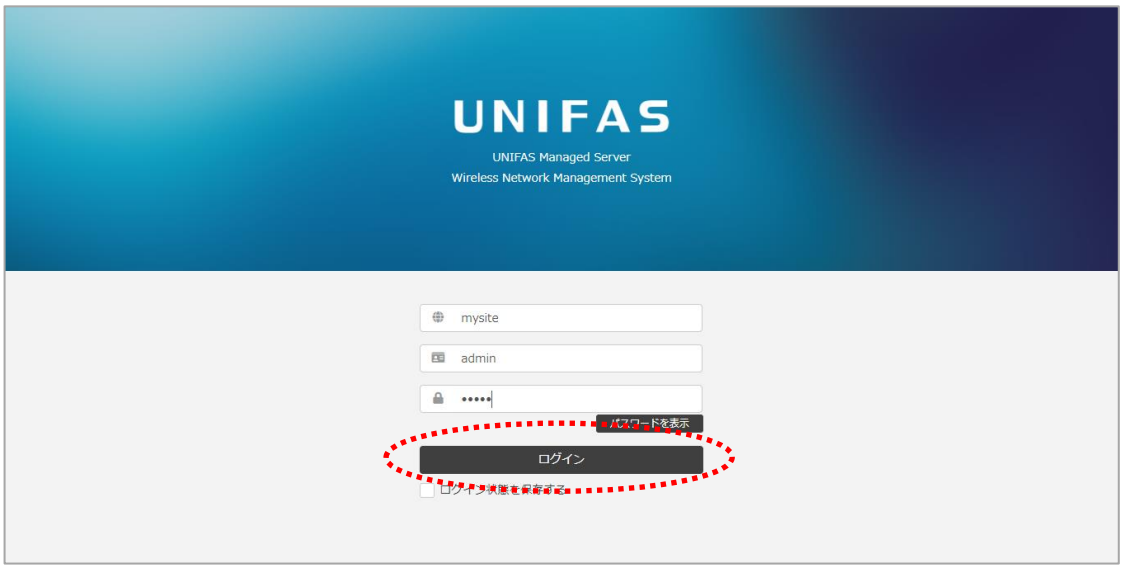


column

Internet Explorerご使用時の注意点について

- 管理画面をInternet Explorerで利用される場合、「フォントのダウンロード」を有効にしてください。
  1.「インターネットオプション」を開きます。
  2.「セキュリティ」タブを開き、「レベルのカスタマイズ」をクリックします。
  3.「フォントのダウンロード」を「有効にする」に設定します。

2 ログイン画面が表示されますので、下記の初期値を入力してログインします。



初期値）

項目	値
管理サイト	mysite
ログインID	admin
ログインパスワード	admin

- エラー画面が表示される場合、Windows Updateが必要な場合がございます。動作が確認できているWindows Updateのバージョンについては、サポートセンターをご確認ください。

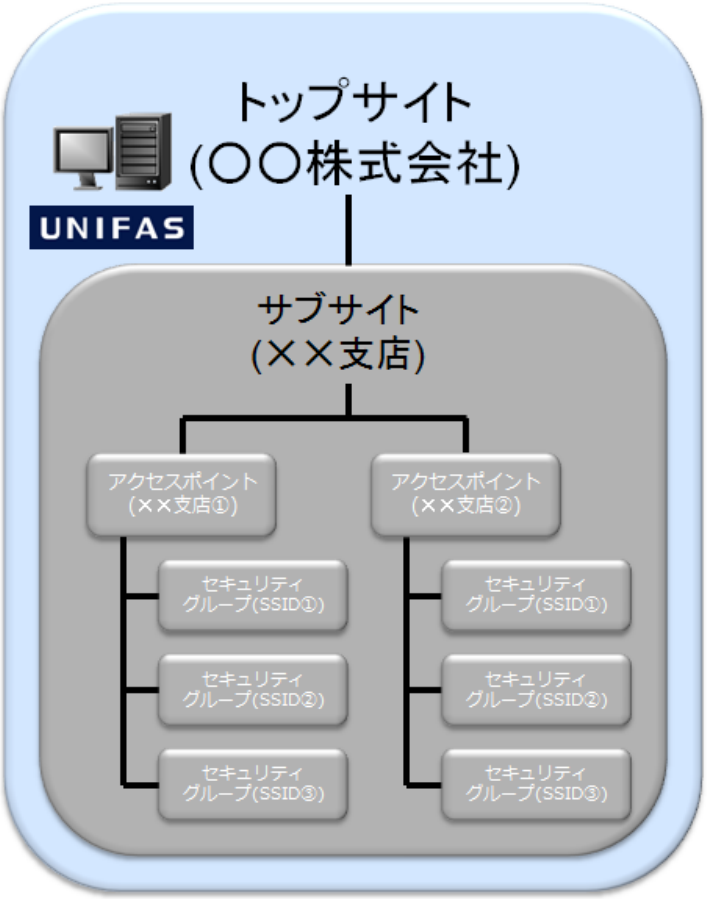
3 トップサイトの管理画面が表示されます。



以上でログイン操作は完了です。
引き続きトップサイト設定を行います。

3.2 トップサイト設定

トップサイトはUNIFAS Managed Server内のサブサイト全てを包括します。
トップサイトで設定される値は全サブサイトに影響があります。
本項ではサブサイトを作成いただく前に、変更を推奨する項目の設定について説明します。



3.2.1 トップサイト名の変更

トップサイト名はサブサイト名と合わせて、アクセスポイントがUNIFAS Managed Serverへ設定値の取得を行う際に使用されます。
サブサイト作成後のトップサイト名の変更は設定を行ったアクセスポイント全ての設定値変更が必要となるため、事前に実際の運用に合わせた値に設定しておくことを推奨します。

1 管理者メニューから[システム管理]-[トップサイト情報設定]をクリックします。



column

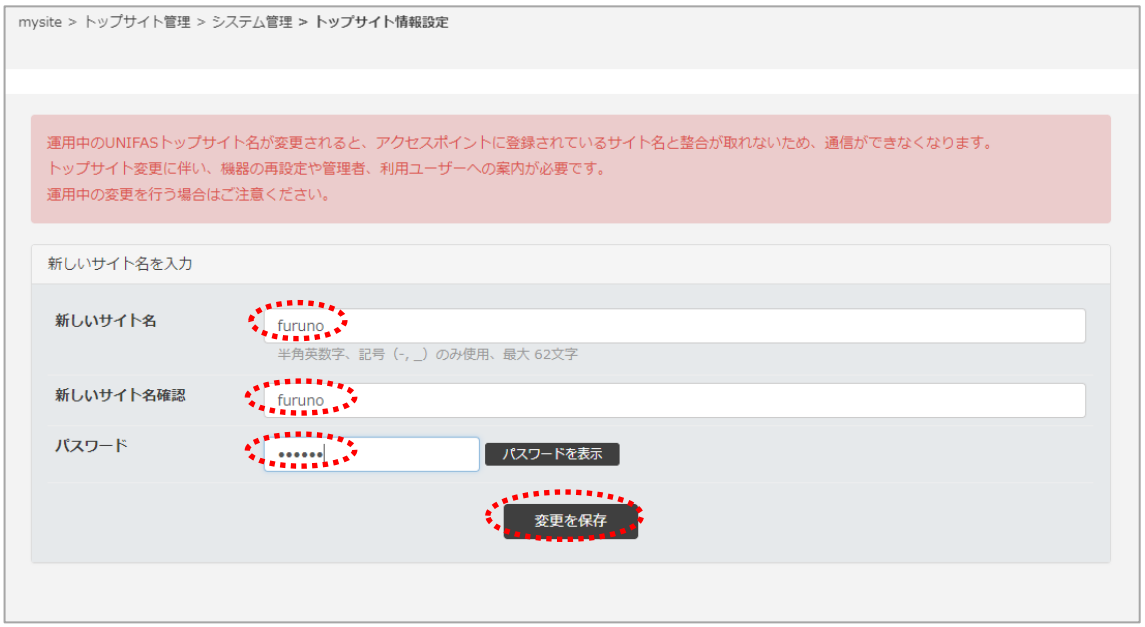
トップサイト名について

トップサイトは全サイトを包括しているため、命名に関しては組織名などを設定すると分かりやすく管理を行うことが可能です。
例）
　トップサイト名…furunosystems（会社名・組織名など）
　サブサイト名…tokyo（支社名など）

またアクセスポイントはUNIFAS Managed Serverへ定期的にアクセスし、設定値の取得を行いますが、その際にトップサイト名を含んだ下記の形式の固有名称を使用します。
　アクセスポイント名@サブサイト名.トップサイト名

アクセスポイント名を「AP01」とした場合、以下の固有名称を使用します。
　AP01@tokyo.furunosysytems

2 サイト名変更画面が表示されますので、各値を入力し[変更を保存]をクリックします。



設定例）

項目	説明	例
新しいサイト名	対象サイト名を入力します。	furuno
新しいサイト名確認	対象サイト名を再入力します。	furuno
パスワード	UNIFASのログインパスワードを入力します。	admin

- トップサイト名は後ほど変更することもできますが、全アクセスポイント再設定が必要になりますのでご注意ください。

3 サイト名の更新画面が表示されます。ヘッダーの[UNIFAS]をクリックしトップ画面に戻ります。



4 トップサイト名がmysiteから変更されていることを確認します。



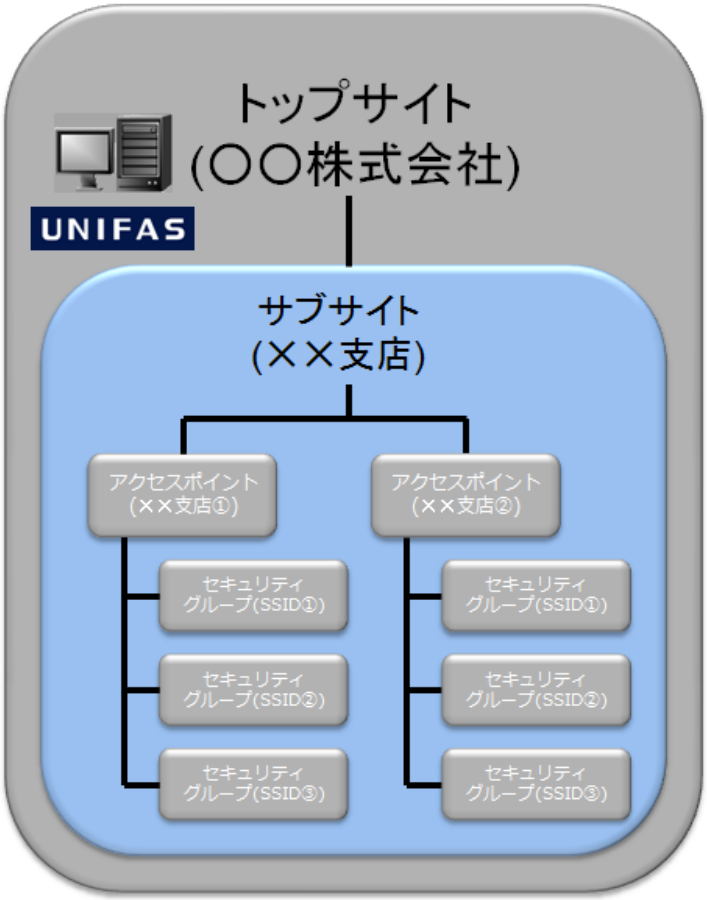
- トップサイト名を変更するとUNIFASログイン時の管理サイト名が変更になります。

以上でトップサイト名の変更は完了です。

4 サブサイト設定

4.1 新規サブサイト設定

サブサイトはトップサイトの配下となり、アクセスポイントの登録、設定などを実際に行う場となります。
一般的には組織の支店単位や部門単位で作成し、サブサイト毎にアクセスポイント設定を行います。



4.1.1 新規サブサイトの追加

1 **管理者メニューから[サブサイト一覧]をクリックします。**



2 **[サブサイトの追加]をクリックします。**



3 各値を入力し、管理者を選択し[新規追加]をクリックします。



設定例）

項目	説明	例
サブサイト名	対象サブサイト名を入力します。	test
メモ	このサイトに関するメモを入力します。	テスト用サブサイト
管理者	このサイトを管理する管理者を選択します。	Administrator

- サブサイト名は後から変更することはできませんので、入力に誤りがないようご注意ください。

4 追加されたサブサイトにアクセスするにはサブサイト一覧の[サブサイト名]をクリックします。



5 **サブサイトの管理者メニューが表示されます。**



以上で新規サブサイトの追加は完了です。
引き続きサイト設定を行います。

4.2 サイト設定

作成したサブサイト内の基本的な動作設定を行う「サイト設定」から「シークレットコード」の設定を行います。

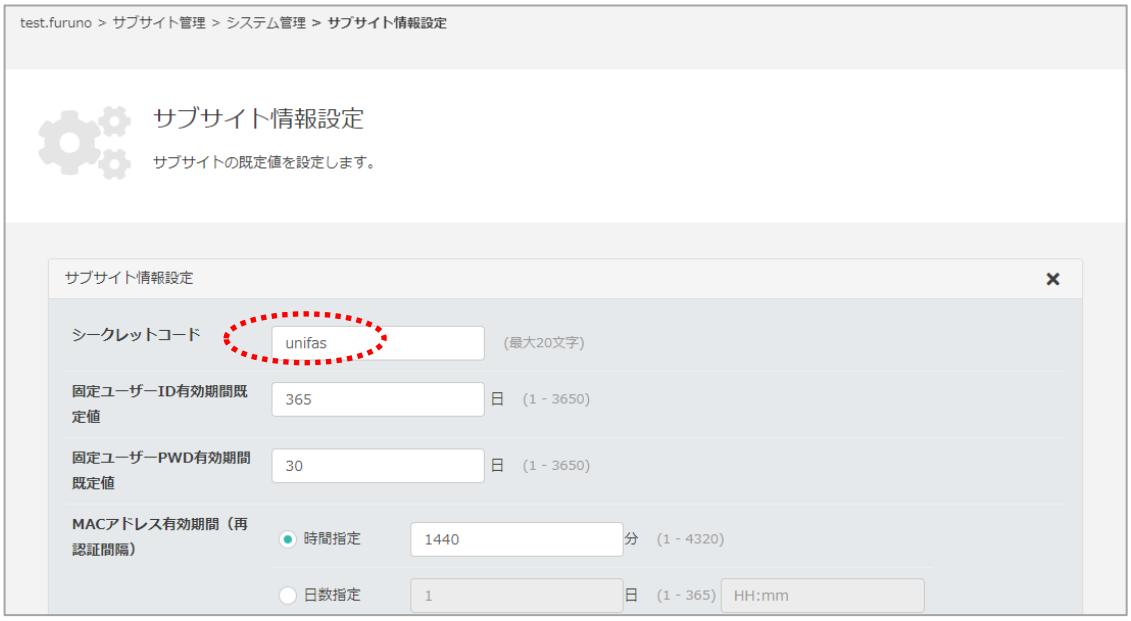
1 サブサイトの管理者メニューから [システム管理]-[サブサイト情報設定]をクリックします。



2 サイト設定は対象サブサイト内で使用される基本的な値を設定しますが、本手順ではACERAと通信する際に使用する「シークレットコード」の設定を行います。編集パネルをクリックします。



3 **シークレットコードの値を任意の値に変更し[変更を保存]をクリックします。「シークレットコード」の設定値は後ほどACERAに設定を行う際に使用しますので、控えておいてください。**



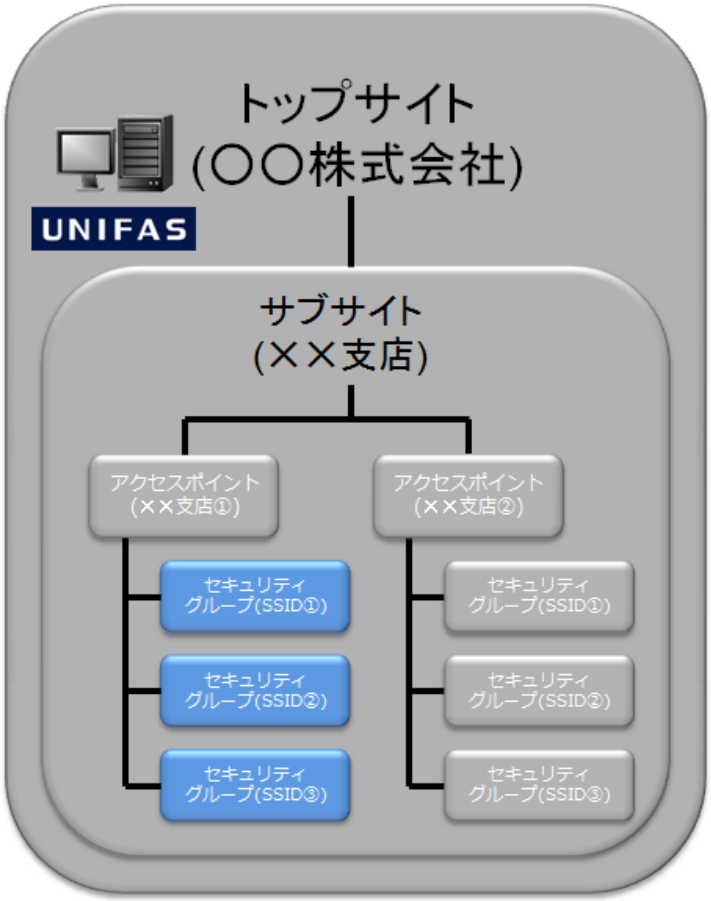
column

シークレットコードについて

シークレットコードはサブサイト毎に設定できる、ACERAとの通信に使用するキーとなります。
実運用後のシークレットコード変更はACERA全てに対して変更作業を行う必要がありますので、事前の変更を推奨します。

4.3 セキュリティグループについて

セキュリティグループはESSIDとそれに付随するオプションをまとめた設定です。
下図のようにACERAは設定したセキュリティグループを割り当てることで動作します。



4.3.1 セキュリティグループの作成

1 サブサイトの管理者メニューから[セキュリティグループ管理]–[セキュリティグループ設定]をクリックします。



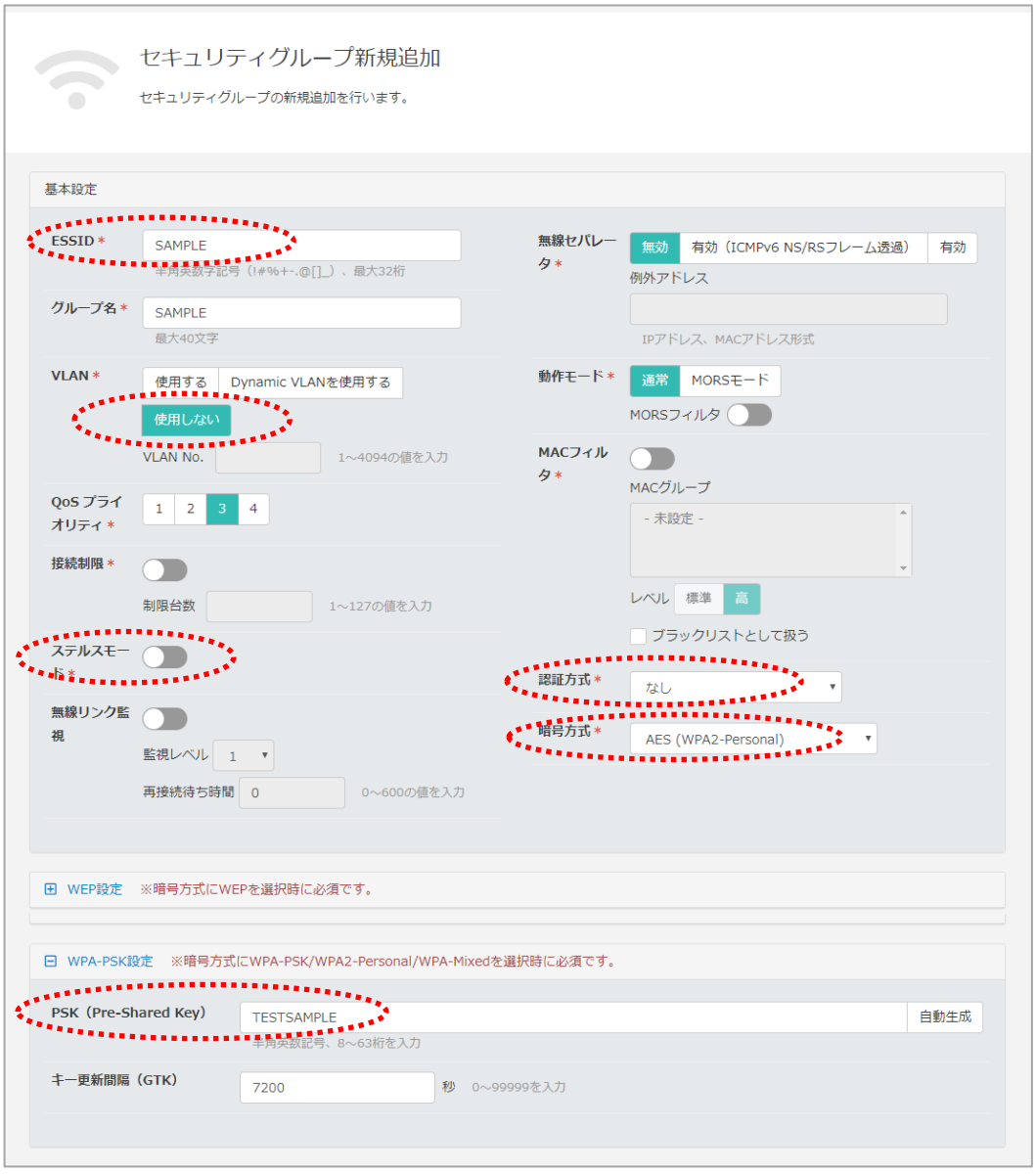
2 [セキュリティグループの追加]をクリックします。



3 各値を設定し、[追加]をクリックします。

設定例）

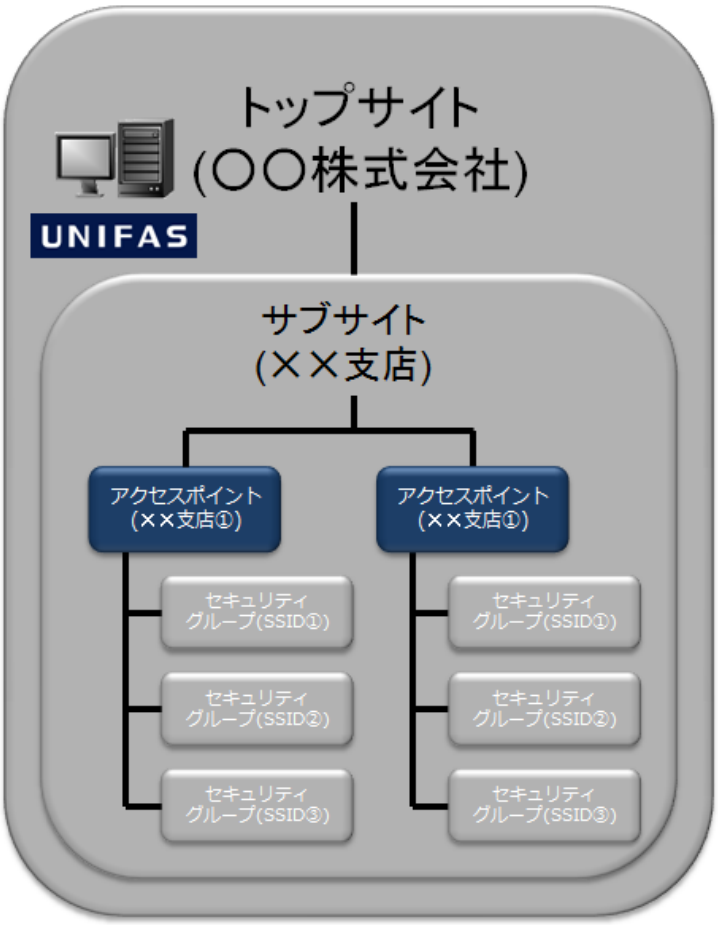
項目	値
ESSID	SAMPLE
VLAN	使用しない
ステルスモード	無効
認証	なし
暗号化方式	AES(WPA2-Personal)
パスフレーズ	TESTSAMPLE



以上でセキュリティグループの追加は完了です。
続いて、アクセスポイントの追加を行います。

4.4 アクセスポイント管理について

本項ではアクセスポイントの追加を行います。
下図のようにアクセスポイントはサブサイト配下に位置し、作成済みのセキュリティグループを割り当てることによって動作します。



4.4.1 アクセスポイントの追加

- 本作業の段階でアクセスポイントの電源が入っている必要はありません。

1 サブサイトの管理者メニューから[アクセスポイント管理] – [アクセスポイント設定]をクリックします。



2 [アクセスポイントの追加]をクリックします。



3 新規追加するアクセスポイントの機種を選択し[新規追加]をクリックします。



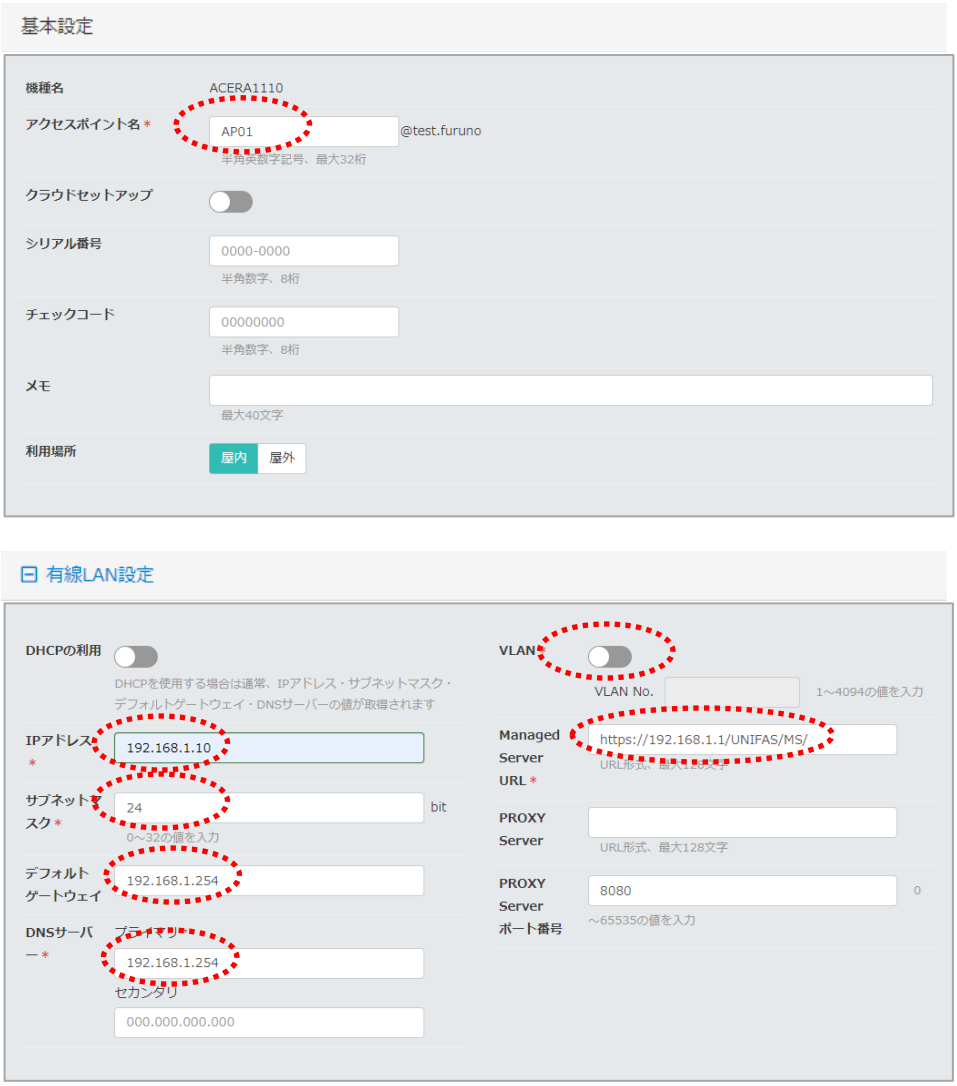
- アクセスポイントの機種はアクセスポイント背面に記載されています。

4 各値を設定し、[追加]をクリックします。

設定例）

○　アクセスポイント有線LAN設定例

項目	値
アクセスポイント名	AP01
IPアドレス	192.168.1.10
サブネットマスク	24bit (255.255.255.0)
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.254
プライマリDNSサーバ	192.168.1.254
VLAN	使用しない
Managed Server URL	192.168.1.1



* Managed Server URLはACERAがUNIFAS Managed Serverと通信する際に使用しますので、必ずサーバ本体のIPアドレス、またはACERA側から名前解決できるドメイン名で入力してください。
「localhost」や「127.0.0.1」のような値では正しく通信できません。

設定例）

○　アクセスポイント無線設定例

項目	無線LAN1	無線LAN2
バンド	802.11a	802.11b/g
11n/ac機能	11ac	11n
11n/acモード	40MHz	20MHz
11n/acショートGI設定	使用する	使用する
パケット集約	AMPDU/AMSDU	AMPDU/AMSDU
チャネル	36ch	1ch
セキュリティグループ	SAMPLE	SAMPLE





5 アクセスポイント一覧に設定したACERAが登録されたことを確認します。

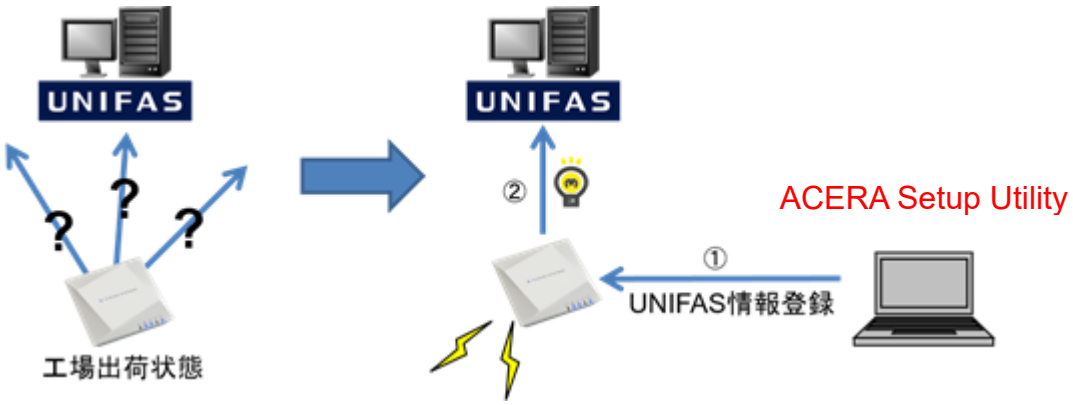


以上でアクセスポイントの追加は完了です。
次にACERA本体の設定を行います。

5 ACERA初期設定

5.1 ACERAの初期設定について

ACERAはUNIFAS Managed Serverと定期的に通信を行うことで動作します。
工場出荷状態では通信先のUNIFAS Managed Serverの情報が設定されていないため、「ACERA Setup Utility」を使用して通信先のUNIFAS Managed Serverの情報を設定します。



5.2 ACERA Setup Utilityについて

ACERA Setup UtilityはACERAの基本的な動作を設定するためのツールです。
ACERA Setup Utilityの最新バージョンについてはサポートセンターよりダウンロードして任意のPCにインストールしてください。

サポートセンター：https://www.ii-desk.com
※[ダウンロード]-[ユーティリティ]-[ACERA Setup Utility]と辿ってダウンロードしてください。

- UNIFAS Managed Serverと異なるPCにインストールしても設定可能です。
- ACERA Setup Utilityの動作環境については同梱されております「ReleaseNote.txt」をご確認ください。

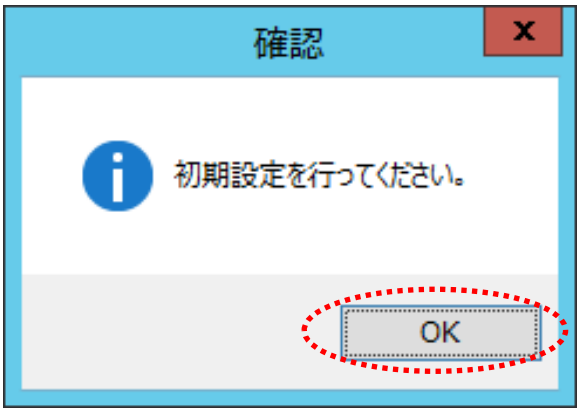
5.3 ACERA Setup Utilityの使い方

- 本手順を行う前にACERAの電源を入れてください。
- ACERA Setup Utilityと通信可能な範囲内のネットワークへACERAを接続してください。
  （ACERA Setup Utilityはブロードキャストで ACERAと通信します）

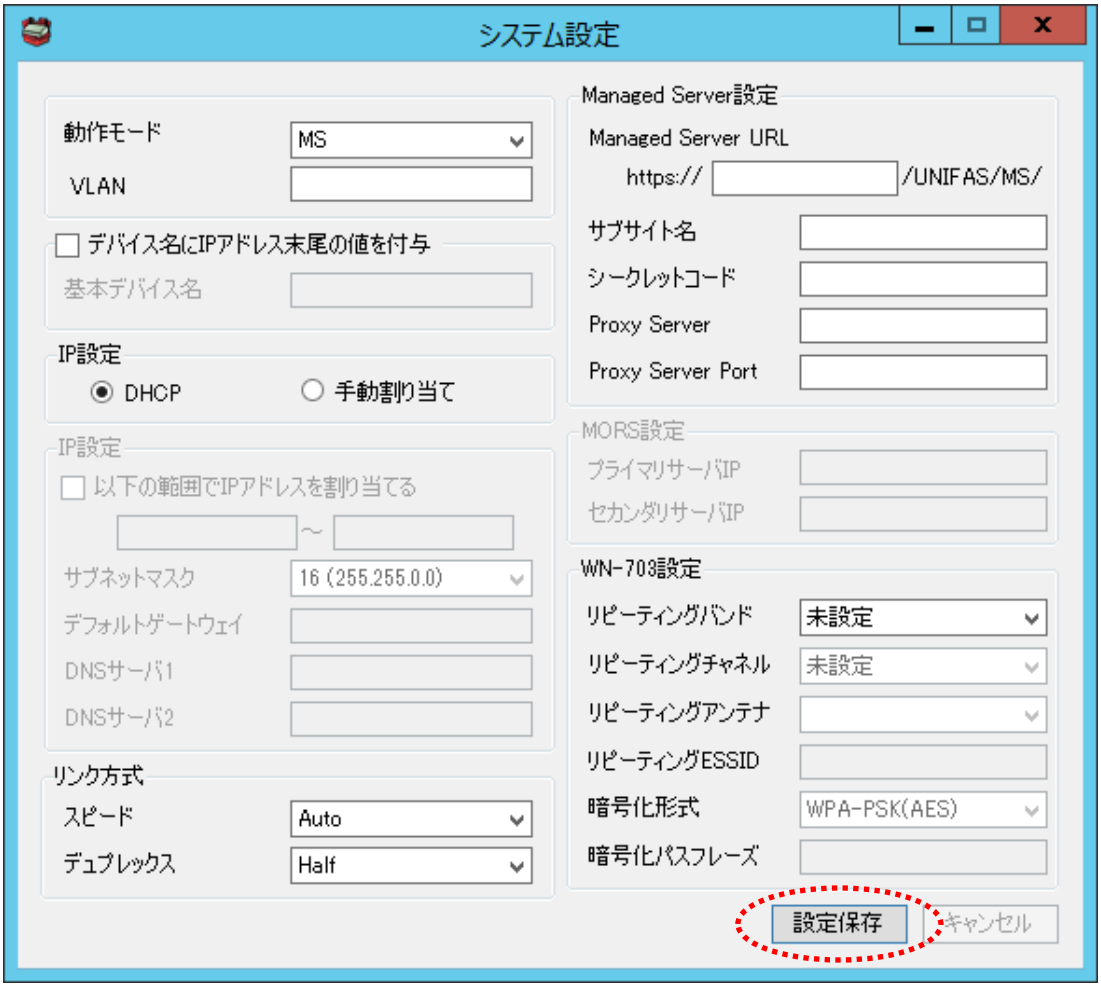
5.3.1 初期設定

1 **Windowsのスタートメニューから[プログラム]-[FURUNO SYSTEMS]-[ACERA]-[Setup Utility起動]を選択し、ACERA Setup Utilityを起動します。**

2 **初期設定のダイアログが表示されますので、[OK]をクリックします。**

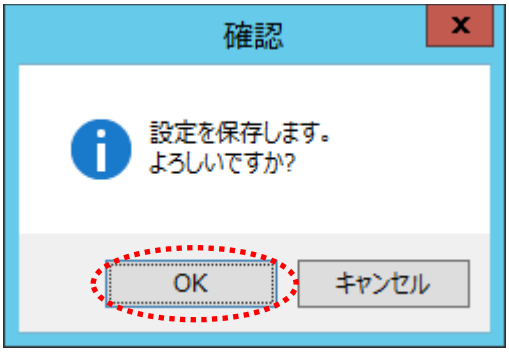


3 **初回起動時のみシステム設定が表示されます。**
システム設定は「既定値ボタン」を使用してACERAに設定を行う際の既定値となります。
設定については任意となりますので、本手順では[設定保存]をクリックして進めてください。



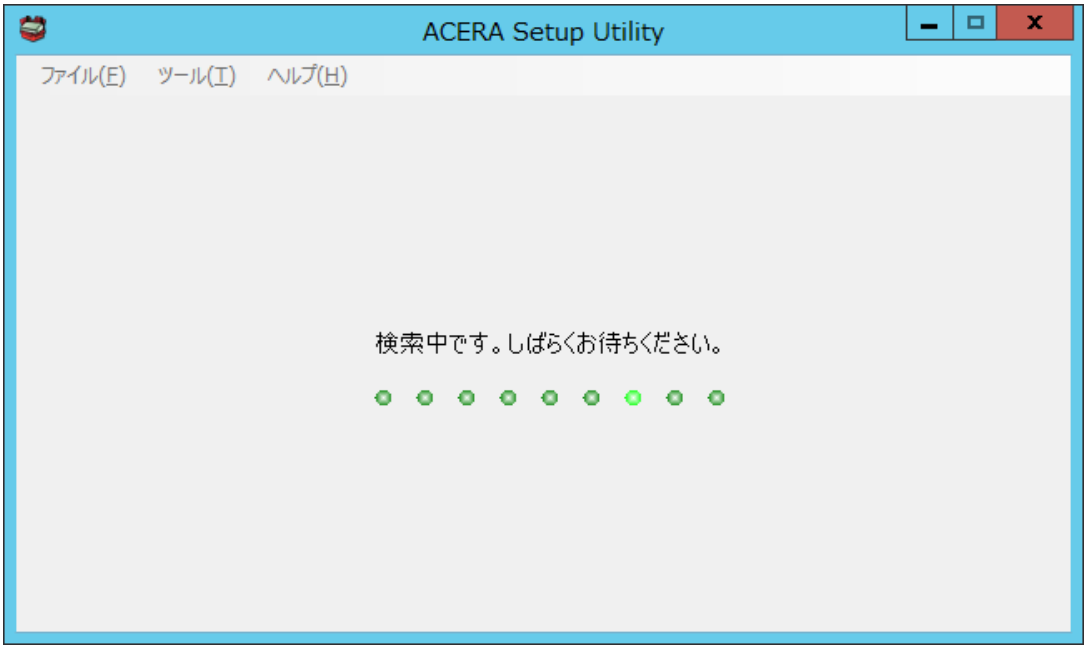
ACERA Setup Utilityのシステム設定（規定値）は後ほど設定が可能です。詳細はACERA Setup Utilityのマニュアルをご確認ください。

4 **確認のダイアログが表示されますので、[OK]をクリックします。**



5.3.2 デバイス設定

1 システム設定が完了すると、自動的に検索が行われネットワーク上のACERAを検出します。



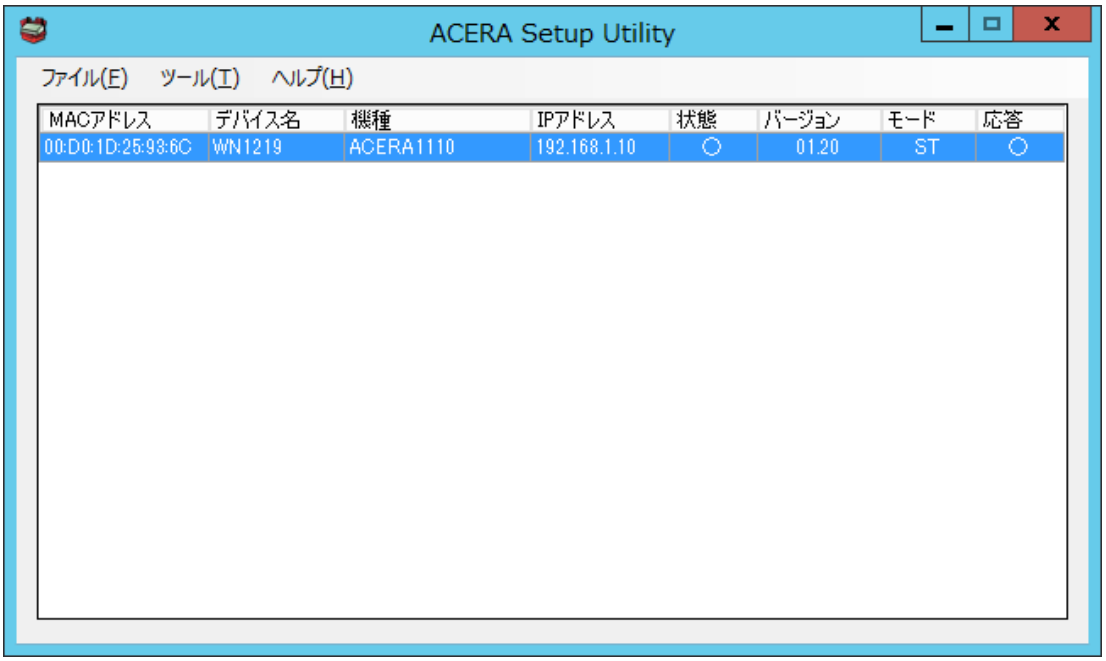
* ACERAの再検索を行う場合[ツール]-[検索]から行うことができます。

column

ACERAが検出されない場合

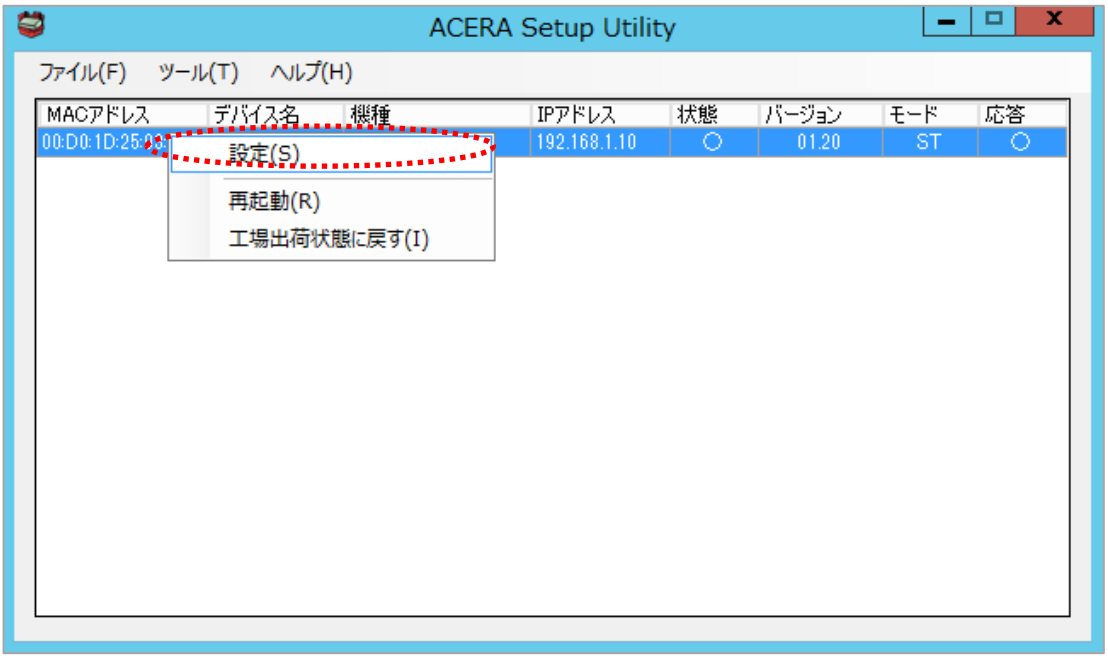
- ACERA Setup Utilityはブロードキャストを使用してACERAを検出します。
  対象のACERAがブロードキャストで通信できる範囲にあるかどうかを確認ください。
- ACERAは電源を入れてから起動を完了するまで時間がかかります。
  電源を入れてからしばらく経ってから再度検索を行ってください。
- ACERA Setup Utilityをインストールしたpcを有線LANで接続してください。
  無線LAN経由での検出は失敗する場合があります。

2 ネットワーク上に見つかったACERAが一覧表示されます。



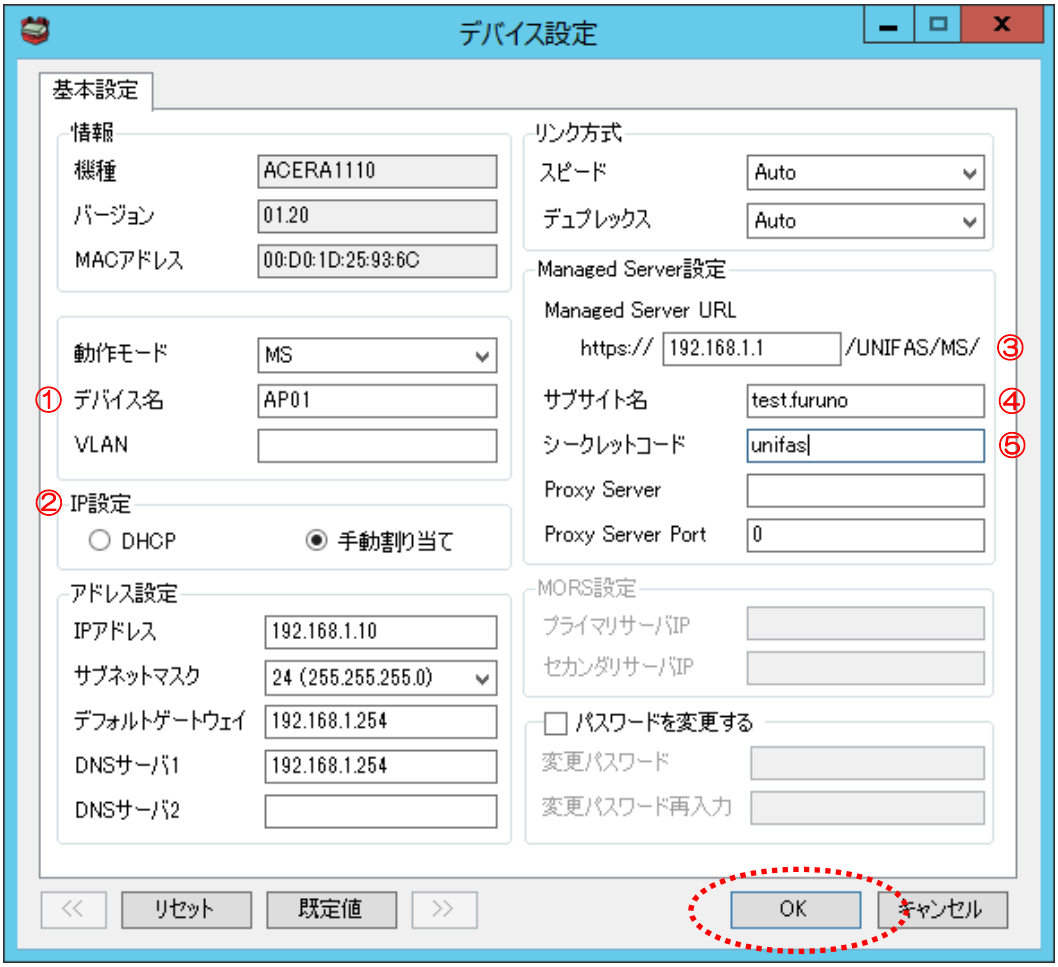
項目	内容
MACアドレス	デバイスの有線側MACアドレスが表示されます。
デバイス名	デバイスに設定されている名前が表示されます。
機種	デバイスの機種名が表示されます。
IPアドレス	デバイスに設定されているIPアドレスが表示されます。
状態	デバイスの状態が表示されます。 ○：正しく動作している状態を表します。 △：IPアドレスの重複を表します。 ×：工場出荷状態を表します。
バージョン	ファームウェアのバージョンが表示されます。
モード	現在の動作モードが表示されます。
応答	検索の応答可否が表示されます。 ○：応答があったことを表します。 本状態でデバイスの設定が可能となります。 ×：応答が無かったことを表します。 本状態ではデバイスの設定はできません。

3 対象のデバイスを選択し、右クリックして[設定]を選択します。



4 各値を設定して[OK]を選択します。

各値はUNIFAS Managed Server内で設定した値に合わせる必要があります。



項目	内容
動作モード	「MS」を選択します。
デバイス名 ①	「4.4.1 アクセスポイントの追加」で設定したアクセスポイント名を入力します。 本手順書に沿って値を作成した場合「AP01」となります。
IP設定 ② アドレス設定	IPアドレスの設定方法を選択します。 「4.4.1 アクセスポイントの追加」の有線LAN設定で設定した値を入力します。 本手順書に沿って値を作成した場合「192.168.1.10」となります。
Managed Server URL ③	UNIFAS Managed Serverへアクセスするための名前、またはアドレスを指定します。 「4.4.1 アクセスポイントの追加」で設定したManaged Server URLと同じ値となります。本手順書に沿って値を作成した場合「192.168.1.1」となります
サブサイト名 ④	Managed Serverのサブサイト名を入力します。 [サブサイト名. トップサイト名]形式で入力します。 トップサイト名は「3.2.1 トップサイト名の変更」で設定した値を、 サブサイト名は「4.1 新規サブサイト設定」で設定した値を使用します。 本手順書に沿って値を作成した場合「test.furuno」となります。
シークレットコード ⑤	サブサイト内の[サイト設定]で設定されているシークレットコードを入力します。既定値は「unifas」です。

UNIFAS Managed Serverの「アクセスポイント設定」画面内の①～③の設定値をACERA Setup Utilityの①～③の値と合わせてください。



サブサイト名はUNIFAS Managed Serverのナビゲーションに表示されています。
ACERA Setup Utilityの④の値と合わせてください。



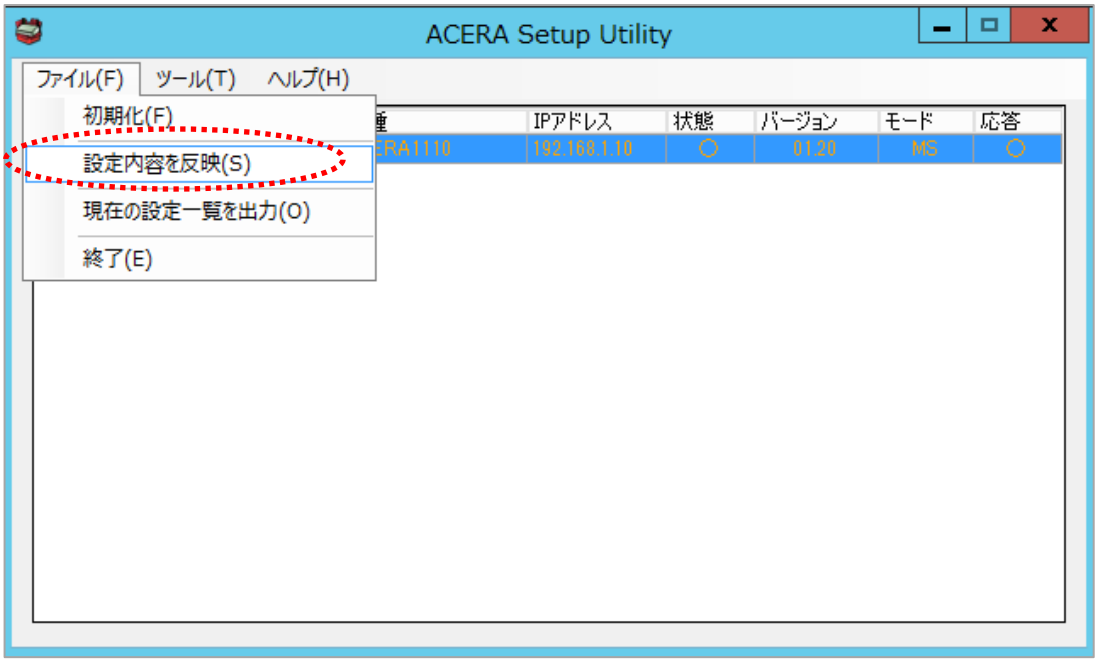
UNIFAS Managed Serverのサブサイト内[システム管理]-[サブサイト情報設定]の⑤の設定値をACERA Setup Utilityの⑤の値と合わせてください。



以上でACERAの設定は終了です。
続いて設定した内容をACERAへ送信します。

5.3.3 設定内容の反映

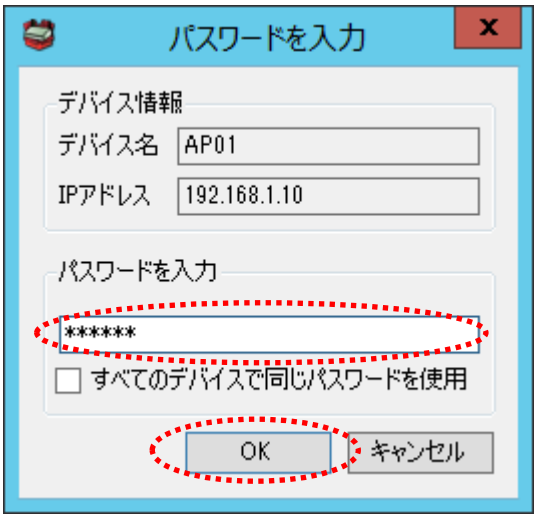
1 **ACERA Setup Utilityの[ファイル]メニューから[設定内容を反映]を選択し、設定送信を行います。**



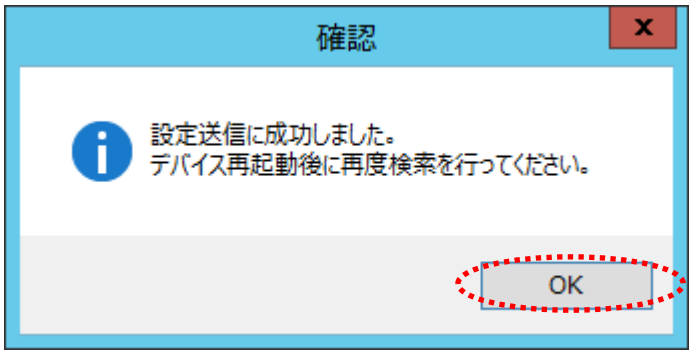
2 **送信対象を選択し[OK]をクリックます。**



3 「パスワードを入力」のダイアログが表示されますのでパスワードを入力し[OK]をクリックします。



4 「パスワードを入力」のダイアログが表示されますのでパスワードを入力し[OK]をクリックします。



ACERAが自動的に再起動され、設定が反映されます。
以上でACERAの初期設定は完了です。

column

ACERAのパスワードについて

- 使用するパスワードはACERA Setup Utility内でのみ使用します。
- ACERAは初期状態ではパスワードは設定されておりません。
  パスワードの設定については
  ・ACERAの設定画面から「パスワードを変更する」としたとき。
  ・「パスワードを変更する」を行わなかった場合、初回の設定送信時に入力したパスワードのいずれかが適用されます。
- パスワードを忘れた場合、工場出荷状態に戻す必要がありますのでご注意ください。

5.4 ACERAからUNIFAS Managed Serverへの通信を確認

ACERA Setup Utilityで設定を完了し、ACERAが再起動されるとACERAは設定された値を基にUNIFAS Managed Serverと通信を開始します。
正しく設定されている場合、ACERAのステータスLEDが青色に点灯し、UNIFAS Managed Serverの管理画面内「アクセスポイント設定」上の対象ACERAの稼動状況が「UP」となります。
設定したACERAから電波が出力され、無線接続可能なことを確認してください。



以上でUNIFAS Managed Serverの基本的なセットアップは完了です。
本手順、また運用に関してご不明な点はサポートセンターへお問い合わせください。

サポートセンター：https://www.ii-desk.com

- UNIFAS Managed Server上のアクセスポイントが赤文字で表示される場合、対象のUNIFAS Managed ServerとACERAのファームウェアのバージョンの組み合わせに問題がありますので、ACERAのファームウェアの更新を行ってください。
  ファームウェアの更新手順についてはサポートセンターに掲載しております、ドキュメント内の「ACERAファームウェアアップデート手順書」をご確認ください。

column

稼働状態がUPとならない場合 / UP後DOWNとなる場合

ACERAはUNIFAS Managed Serverとの通信に以下の値を使用して通信します。
ACERA Setup Utilityで設定を行う際、これらの各値がUNIFAS Managed Serverで設定された値と同じであることを確認してください。

- Managed Server URL
- サブサイト名
- シークレットコード
- アクセスポイント名
- ネットワーク情報

6 付録

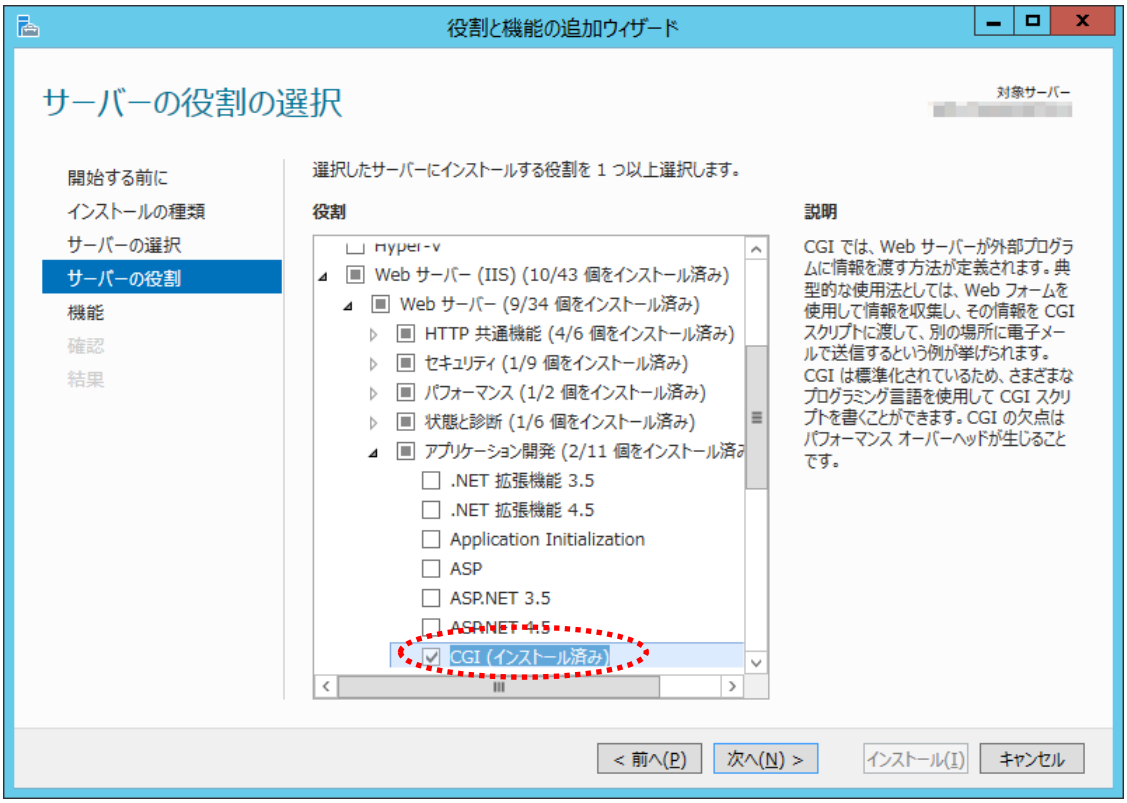
6.1 手動によるIISのセットアップ(Windows Server 2012/2016/2019)

本項では手動でIISのセットアップを行う際の手順を記載します。
「2.2.1 IISセットアップマネージャによるIISのセットアップ」を行った場合、本手順での作業は必要ありません。

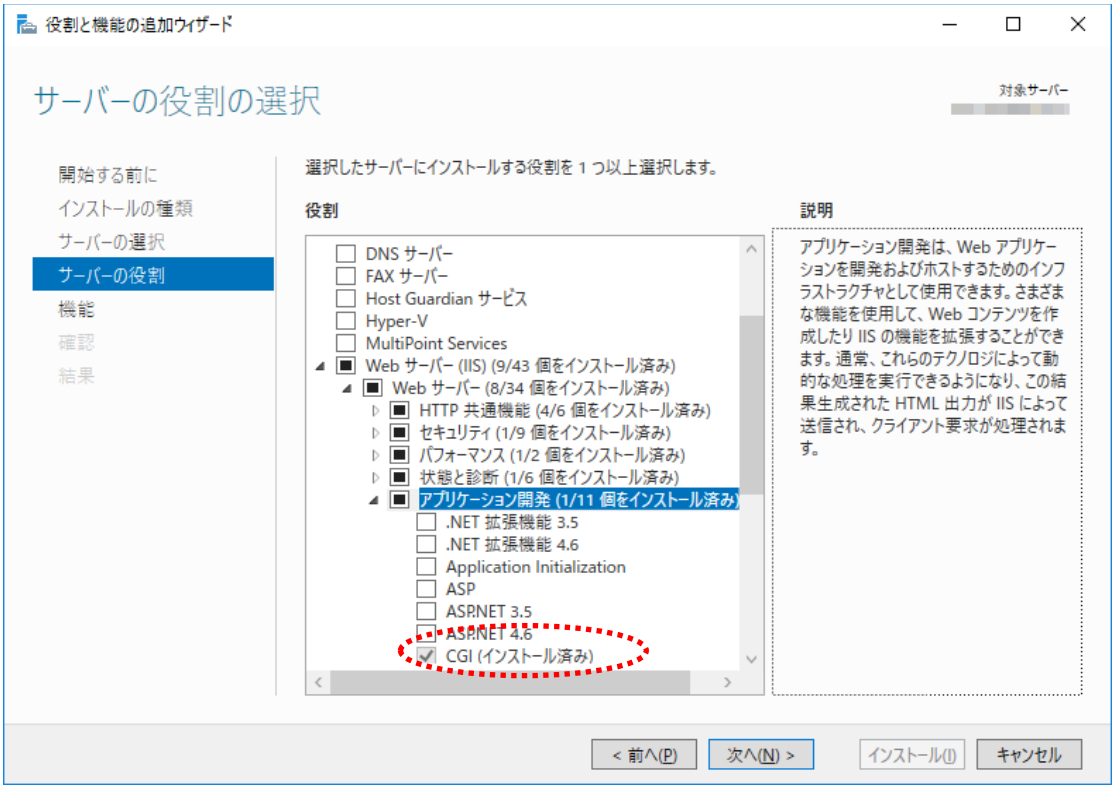
CGIの有効化

UNIFAS Managed Serverの機能の多くはPHP言語によるCGIによって実現されています。
Windows Server 2012/2016/2019では、サーバの役割でWEBサーバを選択した際、既定ではCGIのサポートが有効になっていません。
CGIのサポートを有効にするには、サーバの役割でWEBサーバのCGIを追加選択、インストールしてください。

■Windows Server 2012のサーバマネージャ画面上の該当項目



■Windows Server 2016/2019のサーバマネージャ画面上の該当項目

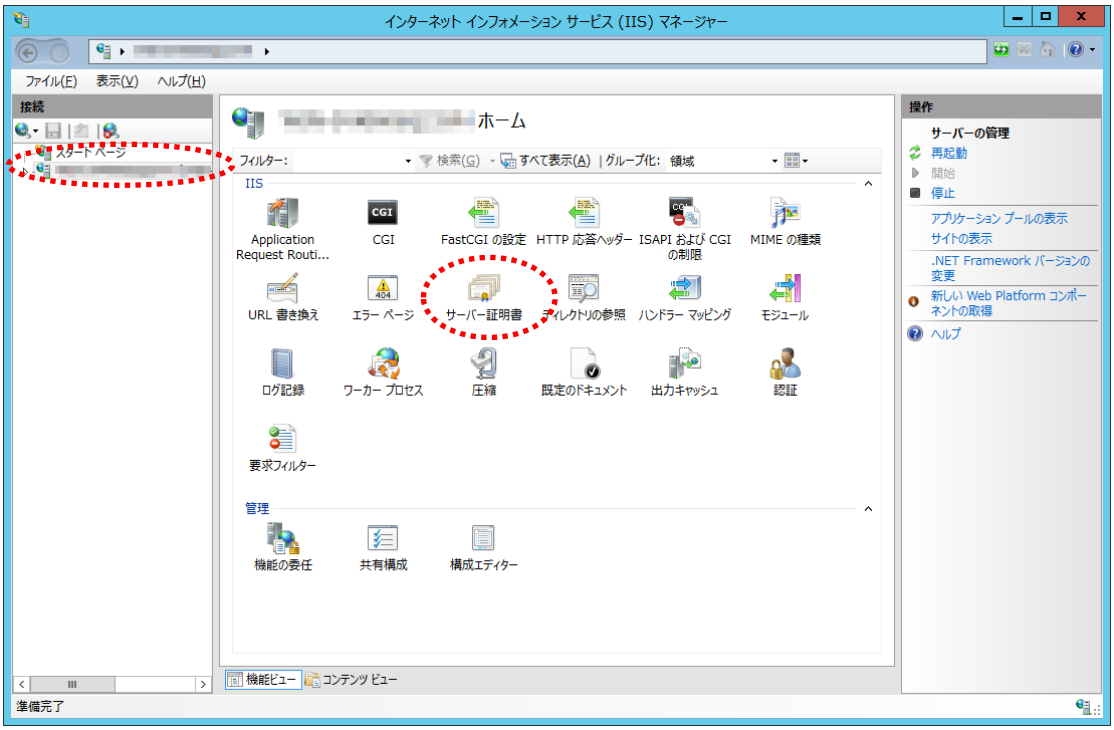


► SSLの有効化

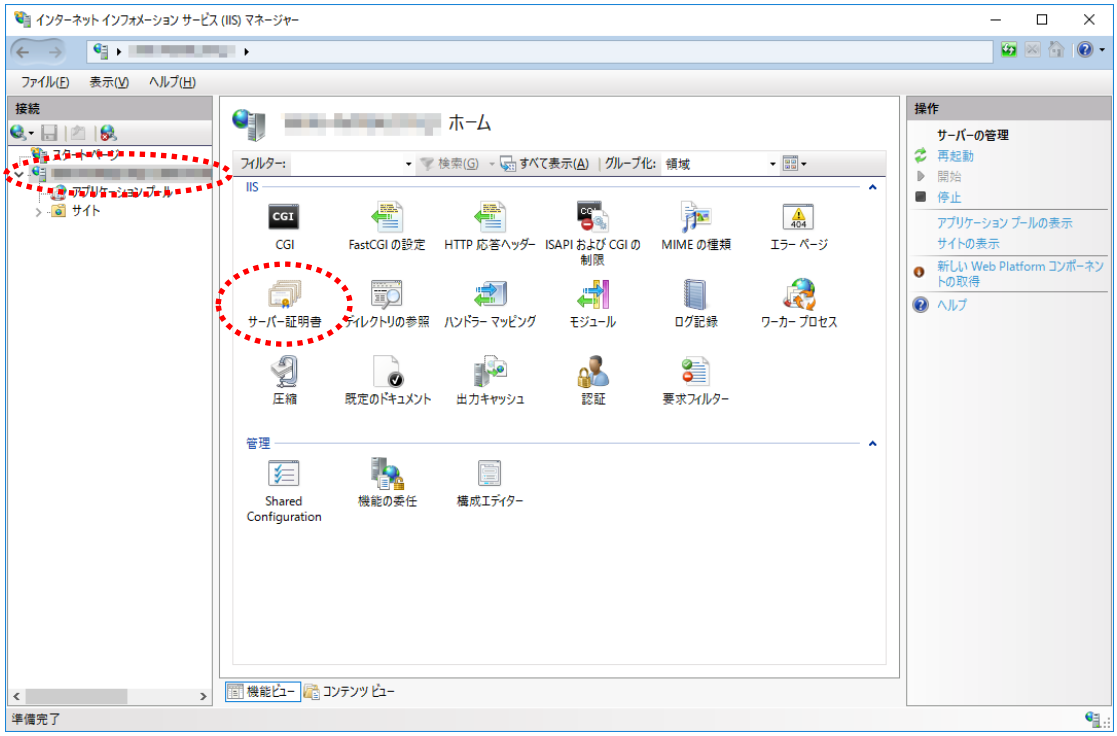
UNIFAS Managed Serverでは、通信の安全上、SSLを使用します。
Windows Server 2012/2016/2019のWEBサーバ（IIS 8.5/10）の初期状態では、SSLは無効化されています。SSLを有効にするには、WEBサーバへhttpsのバインドが必要です。
また、httpsをバインドするためにはサーバ証明書が必要になります。

1 自己署名証明書の生成を行います。
インターネットインフォメーションサービス（IIS）マネージャを起動し、左の接続からサーバ名を選択後、中央のホームから[サーバ証明書]をダブルクリックします。

■Windows Server 2012の画面上の該当項目

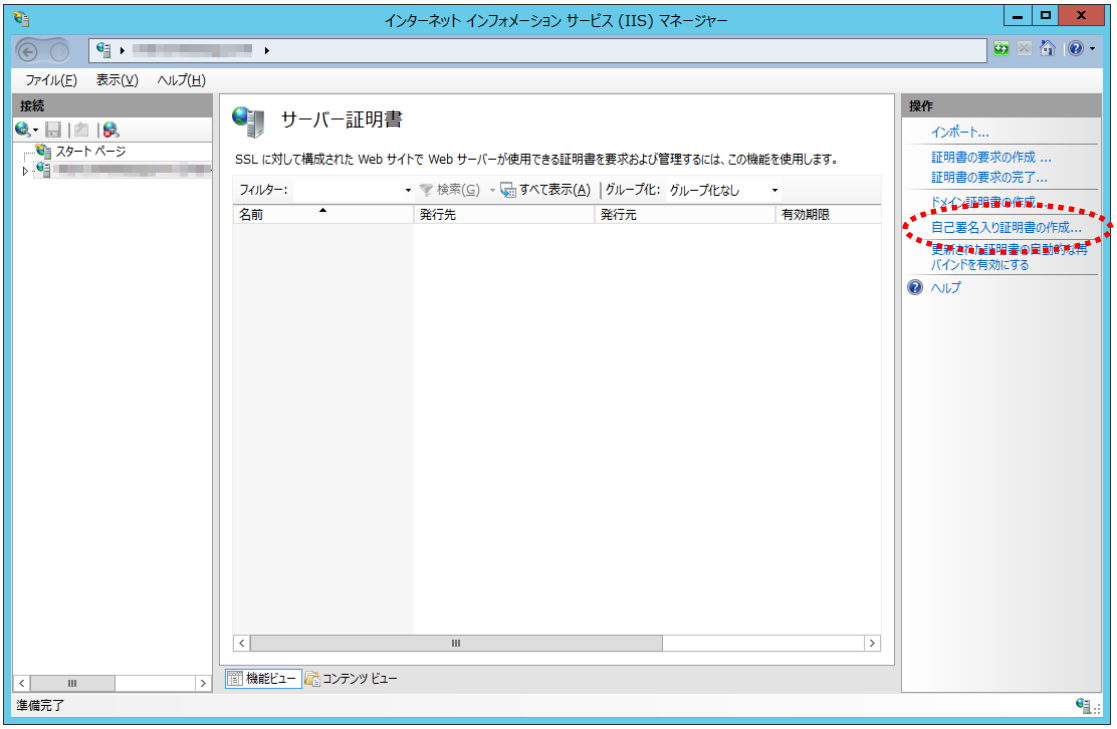


■Windows Server 2016/2019の画面上の該当項目

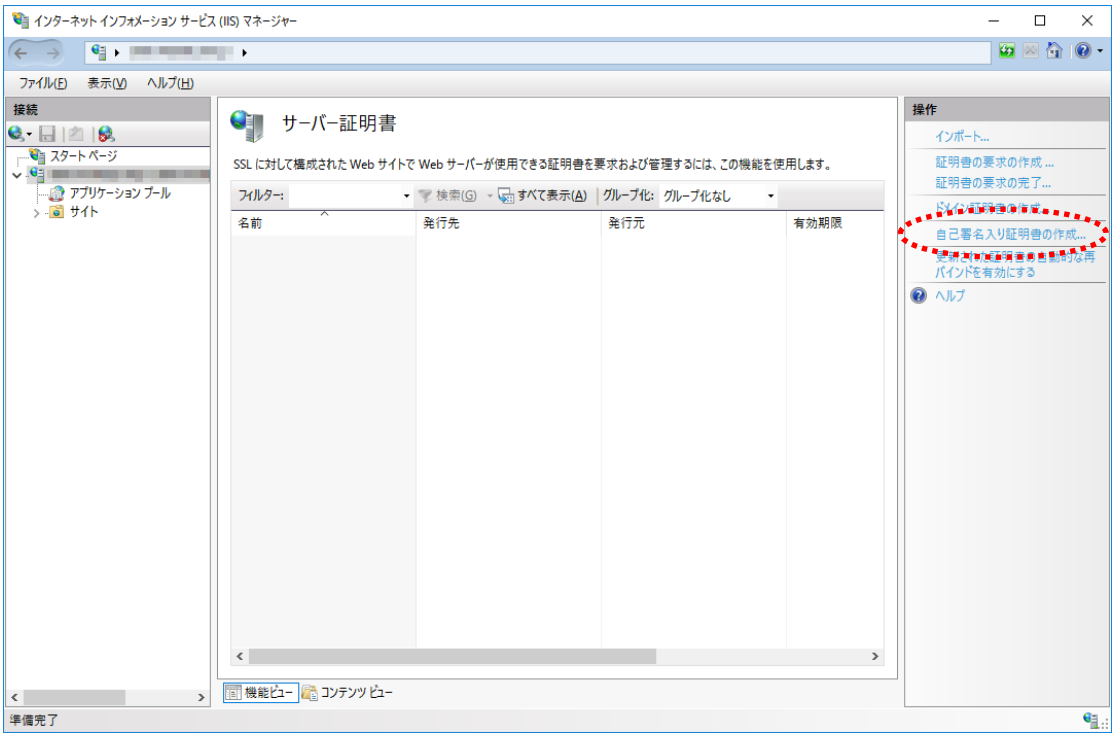


2 右の「操作」から[自己署名入り証明書]の作成をクリックします。

■Windows Server 2012の画面上の該当項目

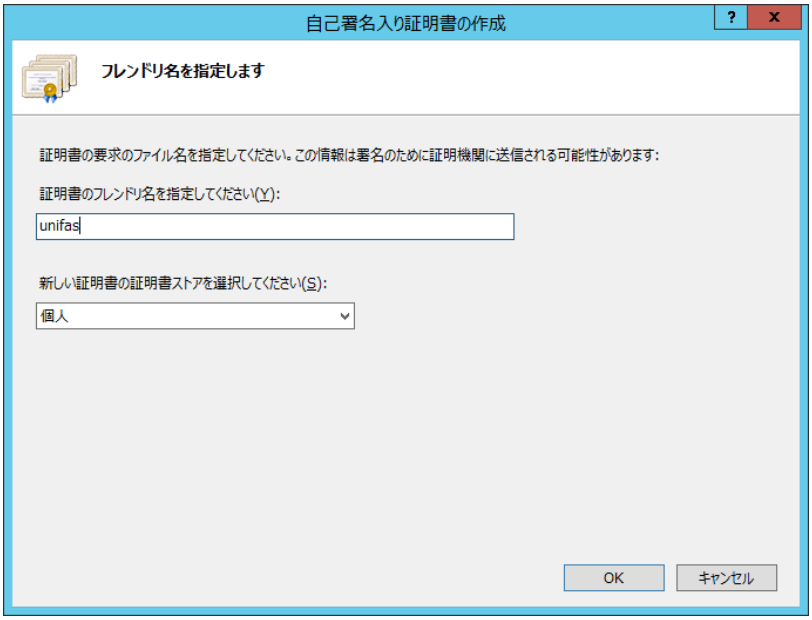


■Windows Server 2016/2019の画面上の該当項目

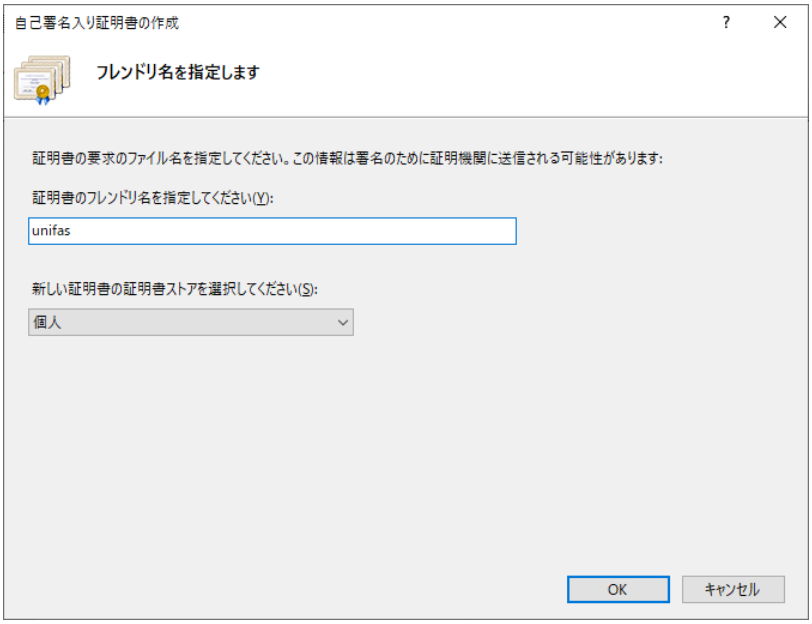


3 「自己署名入り証明書の作成」が表示されますので、任意のフレンドリ名を入力し[OK]をクリックします。ここでは「unifas」としています。

■Windows Server 2012の画面



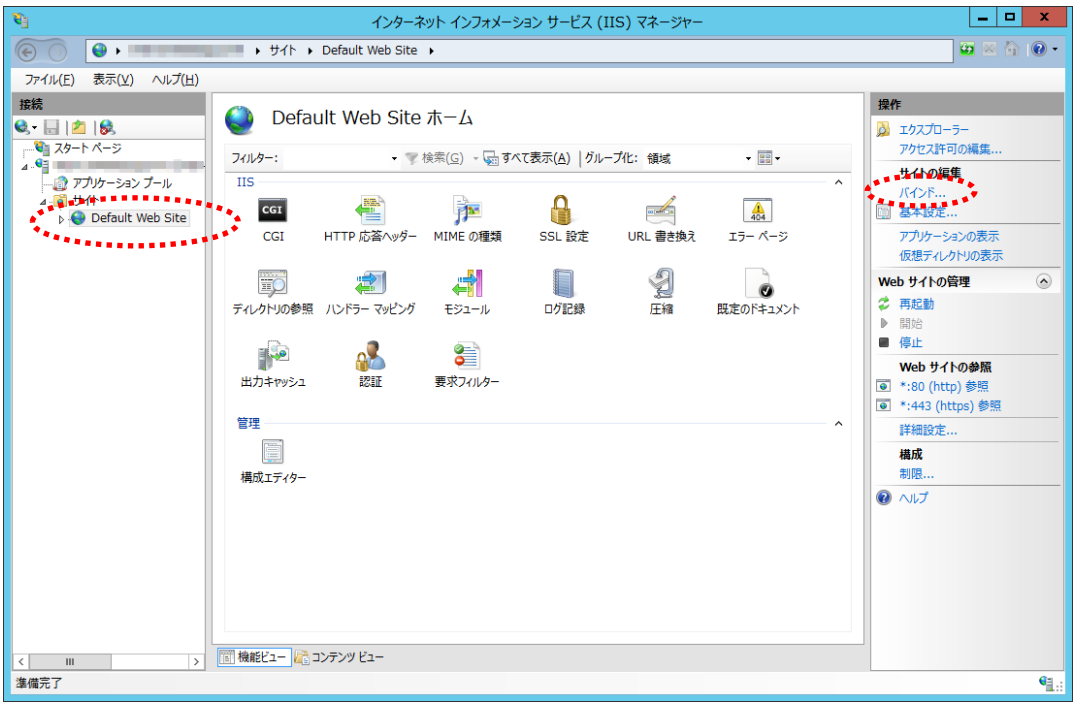
■Windows Server 2016/2019の画面



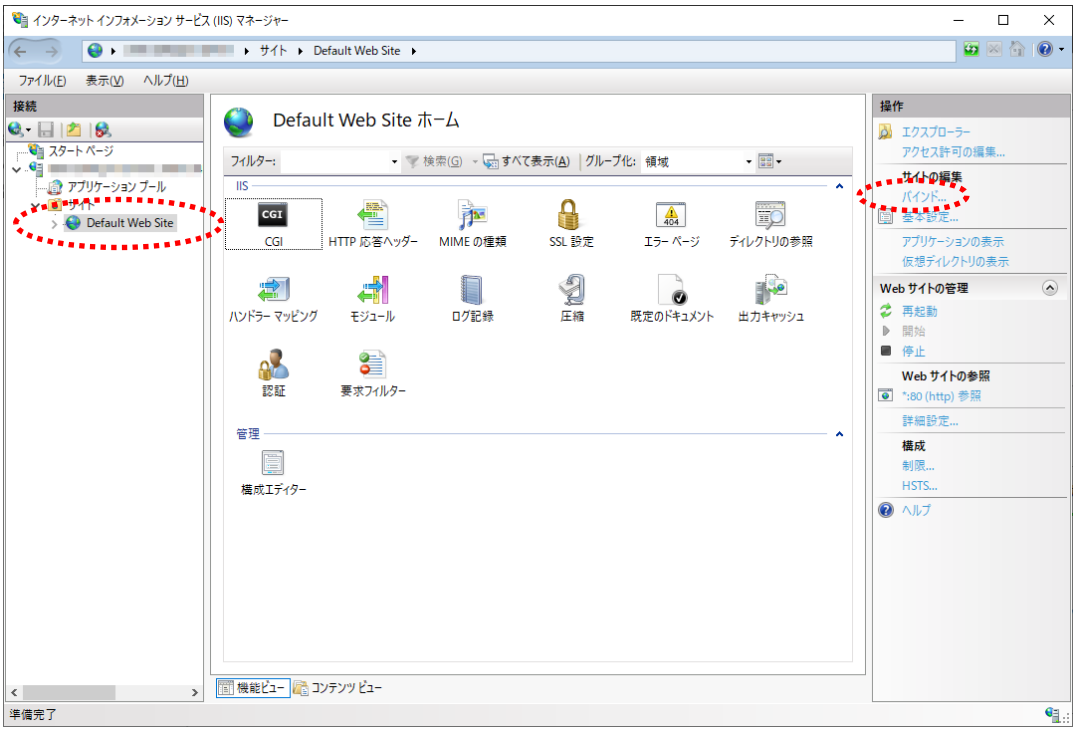
- 本証明書にはフレンドリ名以外の値を設定することはできません。有効期限は1年固定となります。

4 次にWEBサーバへhttpsをバインドしSSLを使用できるようにします。
インターネットインフォメーションサービス（IIS）マネージャを起動し、左の接続から[サーバ名]-[サイト]-[Default Web Site]を選択します。
その後、右の「操作」から[バインド]をクリックします。

■Windows Server 2012の画面上の該当項目

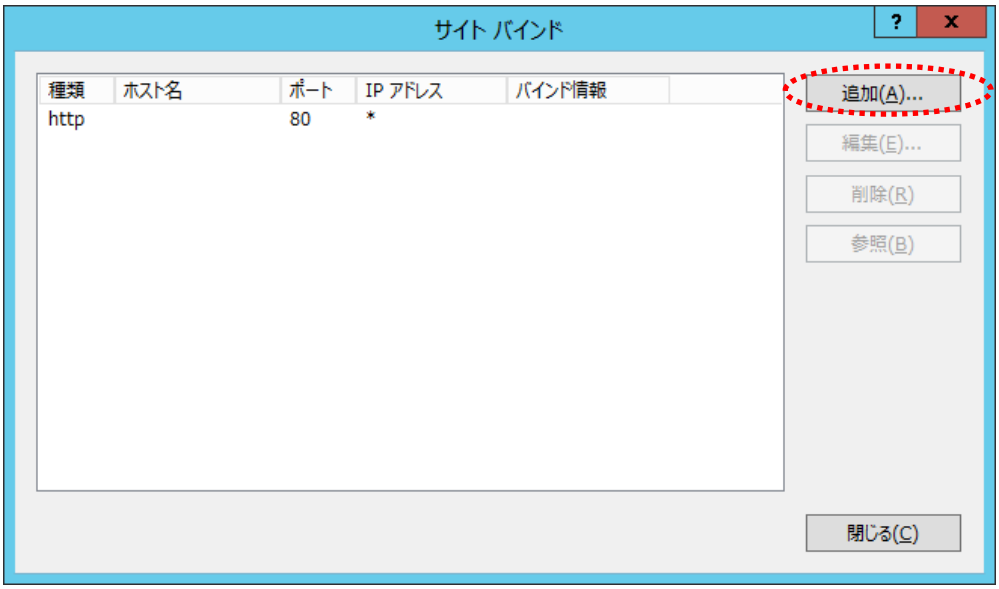


■Windows Server 2016/2019の画面上の該当項目



5 「サイト　バインド」が表示されますので[追加]をクリックします。

■Windows Server 2012の画面上の該当項目



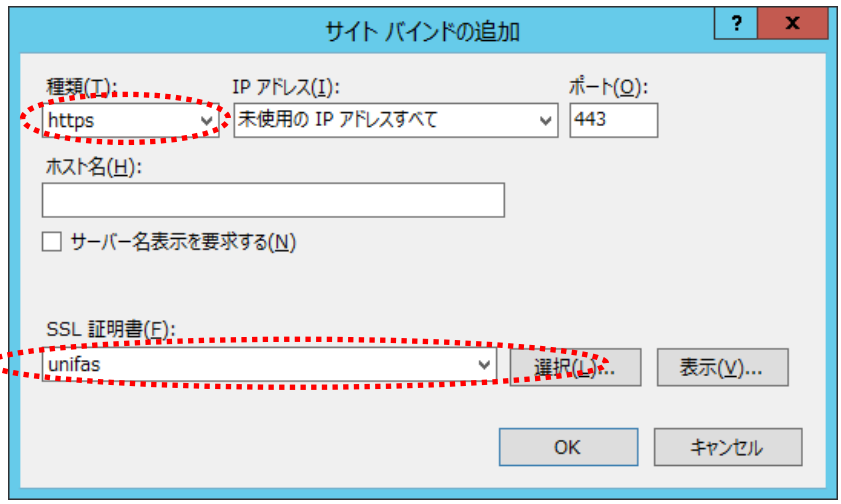
■Windows Server 2016/2019の画面上の該当項目



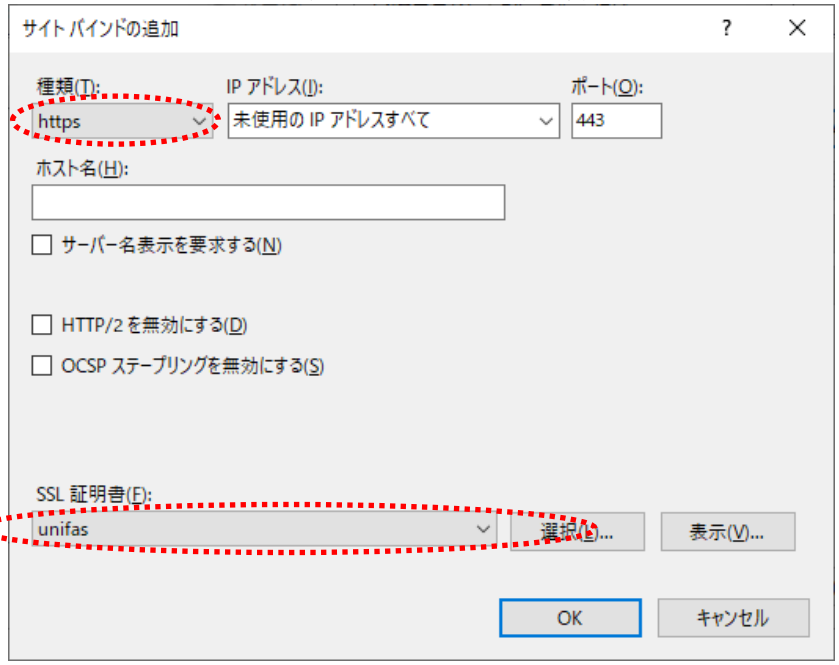
6 「サイト　バインドの追加」が表示されますので「種類」を「https」に、またSSL証明書を選択し[OK]をクリックします。

ここでは先程3の手順で作成したフレンドリ名「unifas」を選択しています。

■Windows Server 2012の画面上の該当項目



■Windows Server 2016/2019の画面上の該当項目



- IPアドレス、ポート番号の変更は行わないようにしてください。

7 「サイト　バインド」にhttpsが表示されていることを確認し[閉じる]をクリックします。

■Windows Server 2012の画面



■Windows Server 2016/2019の画面



以上で手動によるSSLの有効化は完了です。

- 証明書は証明機関から発行された証明書を用いることもできます。

UNIFAS Managed Server
初期**セットアップガイド**
2021年11月 第3版
株式会社 フルノシステムズ
http://www.furunosystems.co.jp

本社　〒130-0026　東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ﾋﾞﾙ
TEL(03)5600-5111(代)　FAX(03)5600-5120
神戸支社　〒650-0047　神戸市中央区港島南町1-5-2 神戸ｷﾒｯｸｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ
TEL(078)304-5491　FAX(078)304-5120
九州営業所　〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-9-2 八百治ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ
TEL(092)433-6151　FAX(092)415-4300
名古屋営業所　〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-31 CK22 ｷﾘﾝ広小路ﾋﾞﾙ
TEL(052)201-7090(代)　FAX(052)201-7092
サービスセンター　〒650-0047　神戸市中央区港島南町1-5-2 神戸ｷﾒｯｸｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ
TEL(078)304-5444　FAX(078)304-5487